

**【解答に関する注意】**

- ① 下記の要領で「正」「副1」「副2」として計3問を選択し、それぞれ所定の解答用紙に1問ずつ解答を記入してください。「正」は100点満点、「副1」「副2」はそれぞれ50点満点、合計200点満点で採点します。
- ② 「正」としては、志望する分野（志願票に記入した専攻分野）の問題群の中から、1問を選択し、解答区分欄「正」の解答用紙に記入してください。
- ③ 「副1」「副2」としては、すべての問題群（分野は問わない）の中から、2問を選択し、解答区分欄「副1」「副2」の解答用紙に1問ずつ記入してください。なお、「正」に選択した問題を再び選択することはできません。
- ④ 各解答用紙の分野・問題番号欄には、そこで解答する問題の分野・問題番号を記入してください。
- ⑤ 解答は枠内に横書きで記入し、裏面まで使用するとき、下枠外の「裏面へ」に○印をつけてください。

**【(日)日本史学】**

問1. 白村江の戦いについて、歴史的背景を踏まえて論じなさい。

問2. 受領国司について論じなさい。

問3. 日本史における「中世」の時代範囲は現状でどのように説明されているか、政治・経済・文化など各分野に配慮しながら答えよ。

問4. 12世紀～14世紀に編纂・叙述された歴史書（史論、物語を含む）を5点とりあげて、その概要と特徴について説明せよ。

問5. 中世以来の村落自治が、日本社会において持った機能を、20世紀まで射程に入れて、具体的に論じよ。

問6. 近世日本の対外交易が、人びとの生活様式に与えた影響を、具体的に論じよ。

問7. 慶応4年から明治元年(1868)にかけて、政府は神仏分離令と総称される宗教の改革に関する一連の法令を出したが、その内容と歴史的意義について述べなさい。

問8. 昭和恐慌期における「高橋財政」の展開について、国内的影響と対外的影響の2つに切り分けながら、できるだけ詳しく論述せよ。

## 【(世)世界史学】

- 問 1. 四書五経について知るところを述べよ。
- 問 2. 高麗王朝について知るところを述べよ。
- 問 3. イスラーム教の中央アジアへの伝播について知るところを述べよ。
- 問 4. マニ教の教義と歴史について知るところを述べよ。
- 問 5. イェルサレム(エルサレム)の歴史について知るところを記せ。
- 問 6. ルネサンス時代のフィレンツェで活躍した芸術家を三名挙げ、知るところを記せ。
- 問 7. イギリスにおける選挙制度改革の歴史について説明せよ。
- 問 8. オーストラリアの歴史について知るところを述べよ。
- 問 9. 南北戦争について次の言葉を入れて論じなさい。  
リンカン 奴隷解放宣言 ミズーリ協定
- 問 10. 米ソ冷戦について 1940・50 年代を中心に論じなさい。

## 【(考)考古学】

1. 考古学全般の問題  
遺跡から出土する土器や陶磁器などの器からわかることについて、具体的な例をあげて述べなさい。
2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。  
①土偶            ②方形周溝墓      ③蛇行剣  
④郡衙正倉      ⑤灰釉陶器        ⑥金箔瓦
3. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。  
①本ノ木遺跡      ②菜畑遺跡        ③紫宸殿  
④飛鳥京跡苑池    ⑤小栗栖瓦窯      ⑥高輪築堤
4. 文化財保護や活用関係  
文化財の種類としては、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6種類に分けられています。埋蔵文化財が、これら6つの種類とは別に位置づけられている理由について、詳細に解説しなさい。

**【(美)美術工芸史学】**

1. 正倉院とその宝物について、特に国際性の観点から論述しなさい。
2. 2019年の文化財保護法改正の趣旨・重要な変更点を述べなさい。
3. 日本美術における外国美術の受容とその展開について、特定の時代の具体的な事例を挙げて論じなさい。
4. 院政期（平安時代後期～鎌倉時代前期）の仏像様式の展開について論じなさい。

**【(保)保存修復学】**

1. デジタル技術が文化財保存に果たす役割について、事例をあげて具体的に説明しなさい。
2. 文化財の防災について、要因や対策を具体的に説明しなさい。
3. 下記の事項について**1つを選択し**、処理対象物の特徴を述べたうえで、その方法について具体的に説明しなさい。（水浸出土遺物の保存処理、金属製遺物の保存処理、屋外にある石造文化財の保存処理、遺構の保存処理）

【出願意図】

専門分野及びその関連分野について、研究遂行上、必要な基礎的知識を修得しているか

【(日)日本史学】

問一. 白村江の戦いについて、歴史的背景を踏まえて論じなさい。

- ・唐・新羅に滅ぼされた百済の復興のため、663年に倭が百済に援軍を送り、唐・新羅の連合軍と戦い敗れた戦争。
- ・7世紀半ば、新羅は唐との関係を強め、660年に両国が百済を滅ぼす。
- ・当時、百済王子(余豊璋)が人質として倭に滞在。百済遺臣の求めに応じ、倭は豊璋に援軍を付して朝鮮半島に派兵。
- ・参戦の目的は、豊璋に百済を復興させて属国とし、朝鮮半島での利権を得ること。
- ・敗戦後、唐・新羅連合軍の追撃に備え北九州・瀬戸内・畿内の要所に古代山城を築城。
- ・両国は高句麗侵攻に注力し倭に侵攻せず。668年の高句麗滅亡で新羅が朝鮮半島統一。
- ・亡命してきた百済・高句麗遺臣を官人として登用し、律令国家形成への改革が充実。

○評価の指針

- ・下線部の内容は不可欠。
- ・戦争に到る背景として、7世紀半ばの東アジア諸国の関係、参戦した倭の為政者の思惑、敗戦が倭に与えた影響などを説明できているかを評価する。必ずしも上記の全項目について言及している必要は無い。

問二. 受領国司について論じなさい。

- ・受領国司は平安時代以降の、任国に赴き国務の責任を負う国司の最高責任者をいう。
- ・受領とは官人の交替にあたり後任者が事務を引き継ぐことを意味する用語である。
- ・律令制本来の国司の国務は守・介・掾・目の四等官による連帯責任制で、四等官それぞれの交替ごとに受領が行われたが、9世紀に入ると、最上席の国司の交替時のみの実施となり、これが受領国司と呼ばれるようになる。
- ・引き継ぎを行う受領国司に国務の責任と国内での権限が集中。
- ・受領は徴税と都への納入の責任を負い、任期終了時の受領功過定では貢納物完済と帳簿の整合とが重要。
- ・都の公卿たちは受領功過定を重視したが、それ以外の地方行政についての関心は低く、受領は恣意的な任国支配を行い、私富を肥やすようになる。
- ・平安時代中頃には、皇族・権門貴族が宮司・家司を受領に推挙し、その経済力を取り込むことが盛んになる。朝廷の行事や造営事業の費用を受領が提供し、見返りに官職を得る成功も行われた。
- ・受領の私富は単なる彼らの私財であるだけでなく、貴族社会を経済的に支えた。

○評価の指針

- ・下線部の内容は不可欠。
- ・受領国司の成立と、諸国内での責任・権限の集中、貴族社会への経済的影響などについて説明できているかを評価する。その他、受領の成長と並行する郡司の凋落、尾張国百姓郡司

等解文、留守所、在庁官人など地方に着目する解答であっても良い。必ずしも上記の全項目について言及している必要は無い。

問三. 日本史における「中世」の時代範囲は現状でどのように説明されているか、政治・経済・文化など各分野に配慮しながら答えよ。

【採点基準】

- ・時代範囲については、武家政権と荘園制が政治・経済社会を規定するシステムとして協働している時代範囲という理解で、おおよそ 12 世紀から 16 世紀というところでおさえられていることが、合格点に至るための基礎要件である。
- ・荘園制の成立期(10～11世紀)は中世成立期などと呼ばれることがあり、答案によっては時代範囲の起点をここに求めることも予想される。また、「長い 16 世紀」というとらえかたで、17 世紀にまで中近世移行期を理解することもある。これら過渡期についての論及は研究史理解の適格を前提に加点の対象とする。
- ・中世封建制という概念の提示、あるいは具体的論及については、必須とはしないが、日本史の学習成果としての的確な理解が示されていれば加点の対象とする。
- ・上記の時代範囲を前提としながら「中世文化」としてこの間の文化的事象、文化遺産の評価をすることは困難なことかもしれないが、チャレンジは歓迎する。加点も考慮したい。

問四. 12 世紀～14 世紀に編纂・叙述された歴史書(史論、物語を含む)を 5 点とりあげて、その概要と特徴について説明せよ。

【採点基準】

- ・12 世紀～14 世紀に編纂・叙述された歴史書が適格に選択され、概要(基本的書誌データ)が正確に記されていること、特徴については歴史史料としての評価に論及していることが合格点に至る基本要件である。
- ・その他、個々の歴史書について、実読体験に基づく記述や、考察があれば加点の対象とする。

問五. 中世以来の村落自治が、日本社会において持った機能を、20 世紀まで射程に入れて、具体的に論じよ。

以下のポイントを理解できているかが問われる。

- ☆古代の律令国家では、納税責任は「個人」にあったのが、14 世紀以降、徐々に「村」が納税責任を負うようになり、17 世紀以降の近世では、年貢の村請が支配方式の主軸となること
- ☆中近世の村落自治は、年貢徴収だけでなく、構成員の認定や、山野の利用ルール、用水管理や灌漑施設の維持・管理、村内寺社の維持・管理など、生活全般に影響を与えるものであったこと
- ☆納税責任が「個人」におかれた近代でも、村落部における徴税と納税では、なお「近代版の村請」が機能していたこと
- ☆産業組合といった諸種の近代的な組織も、旧近世村単位の自治を前提としていたこと

問六. 近世日本の対外交易が、人びとの生活様式に与えた影響を、具体的に論じよ。

以下のポイントを理解できているかが問われる。

- ☆蝦夷地で獲れたニシンが、魚肥として、日本の農業を支えていたこと
- ☆蝦夷地で獲れたコンブ、長崎や琉球～薩摩経由でもたらされる中国産・東南アジア産の砂糖が、日本の食文化を支えていたこと
- ☆長崎や対馬経由でもたらされる中国産・朝鮮産・東南アジア産の薬種が、日本の「健康」を支えていたこと
- ☆中国産生糸で織られた西陣織など、日本のファッションも対外交易によって支えられていたこと

問七. 慶応4年から明治元年(1868)にかけて、政府は神仏分離令と総称される宗教の改革に関する一連の法令を出したが、その内容と歴史的意義について述べなさい。

【解答例】神仏分離令とは、明治維新によって生まれた新政府が、神道国教化策を進めようとするなかで、神社から仏教的色彩を排除するため出した一連の法令を言う。その内容は、神名に仏教的な用語を用いている神社の書上げ、仏像を神体としている神社は仏像を取り払うこと、本地仏、鯛口、梵鐘の取外しなどを命じることなどであった。ところが、一部の神官の煽動によって、この機に乗じた廃仏毀釈運動が展開されたことにより、多数の寺院が廃され、仏像・仏具・什物・経典など多くの文化財が廃棄・焼却されることになった。政府の宗教政策の方針転換により、行き過ぎた廃仏毀釈は沈静したが、神道国教化は進められ、近代民衆の社会意識に大きな影響を与えることになった。

【評価基準】神仏分離令の内容について正しく理解できているか。その歴史的意義について、維新を契機とした社会変化を含めて考察できているか。

問八. 昭和恐慌期における「高橋財政」の展開について、国内的影響と対外的影響の2つに切り分けながら、できるだけ詳しく論述せよ。

【出題意図】高校の教科書でも概説されている重要な事項であり、大学までの学びをふまえた確かな理解・素養を持ち合わせているかを見定めるために出題した。

【解答のポイント】まず、昭和恐慌そのものについて説明し、当時の政権政党(与党)であった立憲民政党の浜口雄幸内閣がとった経済・財政政策、いわゆる「井上財政」(大蔵大臣だった井上準之助)に触れる。そのうえで、1931年12月に後任の大蔵大臣(蔵相)となった高橋是清の経済・財政政策について、当時の大きな政治変動、すなわち、政党内閣制の揺らぎと軍部の台頭とも絡めて論述してほしい。「高橋財政」の特徴として、国内的には財政支出の拡大(スペンディング・ポリシー)、対外的には金本位制からの離脱にともなう低為替(円安)誘導と輸出ドライブを挙げる。これらの国内的影響として、都市部における景気回復傾向、不況にあえぎ続ける農村部との格差拡大について述べる。対外的影響として、低為替誘導による輸出ドライブが他国・他地域、とくにイギリス帝国圏との激しい通商摩擦を引き起こしたことに言及する。蔵相在職中の1936年、二・二六事件で暗殺される前、高橋が今後の政策をどのように展望していたかにも触れていれば、なおよい。

【(世)世界史学】

問一. 四書五経について知るところを述べよ。

四書とは何か、五経とは何かについて、具体的書名を挙げ、内容に触れながら説明できていれば 60/100 点。このほか、春秋時代から漢代に至る五経成立の過程、注釈などの成立過程、宋学の隆盛と四書概念の確立の事情など、情報量に応じて加点。

問二. 高麗王朝について知るところを述べよ。

新羅末からの高麗王朝の成立過程、遼金王朝への朝貢、武人政権やモンゴルへの臣従、最終的な朝鮮王朝の成立まで、ひとつおりの歴史的展開に触れられていれば 60/100 点。このほか、具体的な人名や地名などを加えた、説明の精粗に応じて加点。

問三. イスラーム教の中央アジアへの伝播について知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する: 7 世紀、アラブ・ムスリム、征服活動、ホラーサーン総督府、サーマーン朝、カラ・ハン朝、テュルク系遊牧民、イラン系住民、イスラーム化、改宗、ハラージュ、アラビア語、ペルシア語、テュルク語

問四. マニ教の教義と歴史について知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する: マーニー、メソポタミア、サーサーン朝、シャープール 1 世、善悪二元論、禁欲主義、光と闇、魂と肉体、伝道、仏教、ゾロアスター教、キリスト教、グノーシス、アラム語、中央アジア、中国、江南

問五. イェルサレム（エルサレム）の歴史について知るところを記せ。

イェルサレムはユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の聖地として古くから栄えてきたが、十字軍や現代のパレスチナ紛争のように争いの的にもなってきた。その歴史について、以下の要点がかかっているかが判定材料となる。

- ・ 古代イスラエル王国の首都、ユダヤ教の聖地であった歴史について書かれているか。
  - ―ダヴィデ、ソロモンの栄華と第一神殿の建設
  - ―バビロン捕囚と帰還後の第二神殿時代 ユダヤ教の成立
  - ―ローマ統治下の二度の反乱とディアスポラ
- ・ 古代末期から中世イェルサレムの推移について書かれているか。
  - ―コンスタンティヌス帝以降のイェルサレムのキリスト教聖地化と巡礼
  - ―ユダヤ人迫害の起源
  - ―イスラーム統治下でのユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の共存
  - ―十字軍時代のキリスト教徒による迫害とイスラームの奪還
- ・ 近世・近代における民族・宗教紛争の起こりについて書かれているか。
  - ―オスマン統治下における諸宗教の共存
  - ―植民地主義と民族主義による抗争の開始
  - ―第 1 次大戦後の処理をめぐる英仏の対応の矛盾とパレスチナ問題の発生
- ・ 上記を踏まえて、現代にいたるパレスチナ問題に言及があるか。

【出題意図】 世界を揺るがし続けるパレスチナ紛争に関連して、ユダヤ教、キリスト教、イス

ラーム教の三宗教の聖地とされるイェルサレムの歴史を問うことで、現代世界を理解する基礎的な歴史知識があるかを問う。

問六. ルネサンス時代のフィレンツェについて知るところを記せ。

現在のフィレンツェはイタリア北部の地方都市にすぎないが、14～16 世紀にかけて同市はルネサンス文化の中心都市として栄え、多くの芸術家が輩出した。これに関連して以下の要点が書かれているかが判断材料となる。

・ボッティチェリ、ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチなどの代表的な芸術家が、フィレンツェで活躍したことを知っているか。またそれぞれの芸術家の作品や活動について知見があるか。

・文学ではダンテ、ボッカッチョ、マキャヴェッリなどの拠点となった。それぞれについてその作品や思想について基礎的知識があるか。

・芸術家や人文主義著作家の保護者としてメディチ家の存在があったことを知っているか。またメディチ家台頭の背景として、イタリア商業都市の復権と、そのなかで内陸にありながら都市間の中継交易でフィレンツェが台頭したことを理解しているか。

・ヴェネツィアやジェノヴァのほかフィレンツェも商工業都市民による共和政であり、ローマ教皇に代表される教会勢力とも神聖ローマ皇帝に代表される封建諸侯とも距離を置く、体制であったことについての背景知識があるか。

【出題意図】 イタリア中部の小さな都市フィレンツェで、なぜ世界史的に重要な芸術や文芸、思想が誕生したかについて説明できる知識があるかを問う。

問七. イギリスにおける選挙制度改革の歴史について説明せよ。

第 1 回選挙法改正(1832 年)、第 2 回選挙法改正(1867 年)、第 3 回選挙法改正(1884 年)、第 4 回選挙法改正(1918 年)、第 5 回選挙法改正(1928 年)について、それぞれ、「選挙制度の変化」「改正が求められた社会的背景」「法改正に至る政治的・社会的動き」「法改正がイギリス政治や社会に与えた影響」について説明されていることが必要となる。第二次世界大戦後の選挙法改正や選挙権年齢の引下げ、スコットランド・ウェールズへの権限移譲について説明があれば加点対象とする。

問八. オーストラリアの歴史について知るところを述べよ。

18 世紀半ばから 20 世紀末にかけてのオーストラリアの歴史展開について、以下の事項について簡潔な説明がなされ、その歴史的意義が述べられていることを求める。述べられている以下の事項の数に応じて加点する。

- ・クックによるオーストラリア南東海岸の発見とイギリスの領有宣言
- ・流刑植民地の成立
- ・自治政府の拡大、オーストラリア連邦の成立
- ・19 世紀の自治政府による先住民政策
- ・第一次世界大戦との関わり
- ・戦間期におけるイギリス本国との政治的、経済的関係の変化
- ・第二次世界大戦との関わり
- ・アメリカ合衆国との関係を中心とした冷戦期(1970 年代まで)におけるオーストラリア対外関係
- ・1970 年代以降の、白豪主義の終焉と多文化社会への移行、および、東アジア諸国との関係の深化

問九. 南北戦争について次の言葉を入れて論じなさい。

リンカン 奴隷解放宣言 ミズーリ協定

- ・南北戦争が、なぜどのように始まり、どのような戦争だったのかについて、「リンカン 奴隷解放宣言 ミズーリ協定」の言葉を入れ、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・リンカンの奴隷解放宣言の歴史的意味について論じていれば加点する。

問十. 米ソ冷戦について 1940・50 年代を中心に論じなさい。

- ・米ソ冷戦が、なぜどのように始まったのかについて、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・米ソ冷戦に関連して、核開発競争の激化、朝鮮戦争、中華人民共和国の成立など、具体的で専門的な観点から論じているところを加点する。

1. 考古学全般の問題

遺跡から出土する土器や陶磁器などの器からわかることについて、具体的な例をあげて述べなさい。

（1）出題意図

本問は、修士課程での研究や文化財・遺跡調査に必要な、出土資料を通して社会や文化の動態を理解する力を確認することを目的とする。土器や陶磁器は、形態・文様・製作技法などの変化をもとに時期を判断する「編年の柱」となる基本資料であり、特に中近世の遺跡では時期判定に欠かせない。さらに、陶磁器は産地が判明する例が多く、生産と流通の実態、地域間交流の広がりをもとに示す点が重要である。国外では貿易陶磁の研究を通して、東アジアや東南アジアにおける「海のシルクロード」の実像を復元する手がかりとなる。一方、江戸時代の町屋跡や武家屋敷跡などの消費地遺跡では、陶磁器は人々の生活水準や嗜好、流通経済のあり方を考える上で欠かせない資料である。したがって解答では、具体的な出土事例を挙げながら、陶磁器から何が読み取れるのかを社会的・経済的・文化的な視点から論理的に述べる力を評価する。

（2）解答例

本問の解答は、まず時代を明確にし、具体的な遺跡や出土陶磁器を取り上げて論じることが大切である。中近世の陶磁器は、形態・文様・製作技法の変化をもとに時期を判断する「編年の柱」となる資料であり、特に遺跡の年代推定に欠かせない。さらに、陶磁器は産地が判明する例が多く、生産地遺跡（瀬戸・美濃・有田など）と消費地遺跡（江戸など）を結ぶ流通や交易の実態を考察する手がかりを与える。したがって、具体的事例をもとに、陶磁器を通じて当時の社会・経済・文化の動きを読み解くことが求められる。

**何が大事か：**陶磁器の種類や技法を説明するだけでなく、それがどのような社会背景のもとに生産・流通・消費されたのかを考えることが重要である。たとえば、有田焼や唐津焼などの国産陶磁器の発展は国内需要の増大と輸出陶磁の展開を示し、中国・東南アジアの貿易陶磁は「海のシルクロード」を通じた国際交流を物語る。また、江戸時代の町屋跡や武家屋敷跡の陶磁器は、当時の生活を考える上で重要である。

**書き方の要点：**たとえば、「長崎出土の中国製青花磁器や有田焼は、江戸時代初期における貿易と国産化の進展を示し、流通経済と文化交流の活発化を物語る」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。

①土偶

②方形周溝墓

③蛇行剣

④郡衙正倉

⑤灰釉陶器

⑥金箔瓦

### (1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺構と遺物に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明でだけでなく、その遺物・遺構を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺物・遺構であり、時代・地域・機能・技術・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

### (2) 解答例

#### 問1—①解答例

土偶は縄文時代の象徴的な遺物であり、草創期から出現し、前期を経て中期にかけて大型化・多様化した。その後、後期から晩期にかけては東北・関東のみならず西日本にも広く分布が拡大し、全国的に造形の地域差がみられるようになる。

**何が大事か：**土偶の形や出土状況を単に説明するのではなく、それがどのような場面や意図で用いられたのかを考えることが重要である。多くの土偶は配石遺構などの儀礼的空間で、意図的に破壊された状態で出土することが多く、再生や様々な祈願など、共同体の儀礼と関係していたと考えられる。土偶のモデルについては、女性像としての豊穰祈願、精霊や守護神の象徴、あるいは死者の身代わりなど諸説あり、統一的な見解は得られていない。

**書き方の要点：**たとえば、「縄文時代の土偶は、儀礼的施設で破碎されて出土しており、共同体の祈りや再生の象徴として用いられたと考えられる。このように土偶は縄文社会における精神文化を読み解く重要な資料である」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

#### 問2—②解答例

方形周溝墓は弥生時代前期末から後期にかけて近畿地方で広く確認される墓制であり、墓壇の周囲に方形の溝をめぐらせる構造をもつ。東大阪市の瓜生堂遺跡はその代表例の一つで、溝で区画された墓域内に複数の埋葬施設が設けられ、弥生社会における埋葬の秩序や共同体のあり方を考える上で重要である。また、滋賀県の山賀遺跡のように前期末から方形周溝墓が出現する事例もあり、この墓制が地域的に広がりをもって発展していったことがうかがえる。

**何が大事か：**方形周溝墓の形や構造を説明するだけでなく、それがどのような社会的背景をもって築かれたのかを考えることが重要である。とくに瓜生堂遺跡では、墓の配置や木棺の形状から集団関係を読み取ることができる。

**書き方の要点：**たとえば、「瓜生堂遺跡の方形周溝墓は、弥生時代中期の近畿地方における共同体的埋葬のあり方を示し、墳丘上の埋葬のありかたから集団の関係を考えることができる」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問2—③解答例

蛇行剣は、剣身が蛇のように曲がりうねっている古墳時代の日本の鉄剣である。西日本を中心に出土しており、その形状や出土数からみて、実用品ではなく、儀礼用と推定される。九州南部の発祥と考えられるが、4世紀後半には近畿に広がったとみられる。近年、奈良市の富雄丸山古墳で、装具を含めた長さが285 cmの長大な蛇行剣が出土しており、現時点では最古のものであり、東アジアでも最長の蛇行剣として注目されている。

**何が大事か：**蛇行剣の形状だけを単に説明するのではなく、それがどのような用途に使用されていたのかや、分布・時期なども解説することが重要である。特に、近年注目されている富雄丸山古墳の蛇行剣についての解説も必要である。

**書き方の要点：**たとえば、富雄丸山古墳出土の蛇行剣の概要や、その歴史的な意味について記すなど、具体的事例と歴史的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問2—④解答例

郡衙正倉とは、古代日本の郡衙に設けられた倉庫である。主に租税を納めるためのもので、穀物や財物を保管するための施設である。倉庫の形状は、掘立柱建築や礎石建築、八角形建物など、その構造は多様である。正倉は郡ごとに設置され、郡衙遺構と判断する重要な指標ともなっている。史料によると、正倉には、収納物によって不動穀倉、動用穀倉、穎稻倉、粟倉、糯倉、義倉、塩倉などがあり、壁面の構造によって甲倉、板倉、土倉、丸木倉などの区別があるが、発掘調査では掘立・礎石の差違以外、建築構造の違いが識別できず、史料による倉庫との対比が難しい。

**何が大事か：**郡の倉庫という説明だけではなく、史料によってどのように使用されていたのかや、倉庫の分類についても記していく。また、発掘調査で見つかる倉庫との対応や、その限界についても記すことが重要である。

**書き方の要点：**史料には倉庫の規定や種類が詳細に記されているが、これが発掘調査による考古資料とどのような対応になるのか、といったように、具体的事例と歴史的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料・文献史料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問2—⑤解答例

灰釉陶器とは釉薬を施した施釉土器の一つで、緑釉陶器とともに各地の平安時代の遺跡から出土することから、この時代を特徴付ける土器として認識されている。灰釉とは植物灰を利用した釉薬を指し、緑釉陶器よりも高温の1200度程度で焼成される。製品は淡い緑色を呈するのが特徴である。9世紀前半に愛知県の猿投窯で新たに生産が開始され、生産遺跡は愛知県を中心に岐阜

や静岡に集中している。9世紀から11世紀にかけて尾張地域を中心に東海地方で生産が続けられ、畿内をはじめ各地にこの灰釉土器が搬入された。仏具などに用いられた緑釉陶器に対し、灰釉陶器は碗や皿、壺や瓶など日常的に使用される器形を主とする。

**何が大事か：**灰釉陶器の事実説明だけではなく、同じく平安時代の施釉陶器全般の知識をに関する理解が伝わるように記していく。また、生産と流通に関しても論じる必要がある。

**書き方の要点：**灰釉陶器と緑釉陶器との対比、かつ平安時代の施釉陶器として指標となりうることを具体的事例と歴史的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古学的見地をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

## 問2—⑥解答例

金箔瓦とは軒丸瓦・軒平瓦や道具瓦の焼成後に文様面に漆を塗布し、さらに金箔を押して装飾したものである。古くは織田信長による旧二条城や安土城で採用され、安土城では軒瓦のほか鯨瓦も出土する。信長没後、豊臣秀吉による大阪城や聚楽第、伏見城でも出土することからその使用が確認できる。大阪城城下では大名屋敷の遺構からも金箔瓦の出土が見られるほか、秀吉の五大老の一人、宇喜多秀家の岡山城や前田利家の金沢城などでも少ないながら金箔瓦が出土する。秀吉は腹心の大名にのみ金箔瓦の使用を許し、金箔瓦が政治紐帯の象徴となっていたことをしますと考えられる。

**何が大事か：**金箔瓦の事実説明だけではなく、金箔瓦の特質について考古学的見地から自身の理解が伝わるように記していく。また、金箔瓦の持つ表象性に関しても論じる必要がある。

**書き方の要点：**たとえば、安土城や大阪城出土例の概要や、その歴史的な意味について記すなど、具体的事例と歴史的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

3. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。

- |         |        |       |
|---------|--------|-------|
| ①本ノ木遺跡  | ②菜畑遺跡  | ③紫宸殿  |
| ④飛鳥京跡苑池 | ⑤小栗栖瓦窯 | ⑥高輪築堤 |

### (1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺跡に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明だけでなく、その遺跡を当時の社会的・歴史的な文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学および世界の考古学における主要な遺跡であり、時代・地域・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

### 問3—①解答例

新潟県の本ノ木遺跡は、縄文時代草創期の遺跡として知られ、日本列島における定住化と初期土器文化の成立を考えるうえで重要な資料を提供している。遺跡からは草創期土器のほか、石鏃

や搔器などの打製石器が出土しており、狩猟採集生活の中で土器が用いられ始めた初期段階を示す。こうした出土状況を通して、土器出現期の生活様式や環境との関わりを考察することが求められる。

**何が大事か：**本ノ木遺跡を扱う際は、単に「日本最古の土器が出た遺跡」とするのではなく、その位置づけをめぐる「本ノ木遺跡論争」に触れることが重要である。この論争は、出土土器が本当に縄文時代草創期に属するか、あるいは弥生早期以前の別系統に属するかをめぐるもので、炭素年代測定の再検討や層位関係の再評価が行われた。こうした議論は、縄文文化の始まりをどのように定義するかという日本考古学の基礎的問題に直結している。

**書き方の要点：**たとえば、「本ノ木遺跡の草創期土器は、日本における土器文化の起源を示すとされた。しかし、その層位や出土状況をめぐって論争が起こり、縄文文化の始まりをどう位置づけるかという問題を提起した」といったように、遺跡の概要と学史的意義をあわせて述べるとよい。知識を並べるのではなく、資料と論争の意義を関連づけて自分の理解を示すことが評価の中心となる。

### 問3—②解答例

本問の解答は、まず時代と地域を明確にし、具体的な遺跡や出土資料を取り上げて論じることが大切である。佐賀県唐津市の菜畑遺跡は、弥生時代早期の代表的な遺跡であり、日本における水田稲作の始まりを考えるうえで極めて重要である。ここでは、溝で区画された早期の水田跡や、木製農具・石包丁などの農耕具が見つかっており、稲作が定着した初期段階の生産活動の様相を具体的に示している。したがって、菜畑遺跡を通して、弥生時代の成立と農耕社会への転換を社会的背景とともに考察することが求められる。

**何が大事か：**菜畑遺跡の水田や農具の発見を単に「稲作の始まり」として述べるのではなく、それがどのような環境や社会の変化の中で成立したのかを考えることが重要である。水田耕作や農具なおについて述べるだけでなく、稲作という新しい食料生産に基づく社会構造の変化を示すものである。

**書き方の要点：**たとえば、「菜畑遺跡では、弥生時代早期の水田跡や石包丁・木製農具が出土し、朝鮮半島から伝わった稲作技術がこの地域に根づきつつあったことを示す。これにより、日本列島での農耕社会の成立過程を具体的にとらえることができる」といったように、具体的事例とその社会的意義を関連づけて論じるとよい。単なる知識の列挙ではなく、資料をもとに自らの考察を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問3—③解答例

「紫宸殿」は平安宮内裏の正殿にあたる建物の名称で、宮廷の重要な儀式が行われた場所である。内裏の南半に南面して建ち、9間×3間の身舎に四面廂がつく（隅廂はない）檜皮葺き建築である。紫宸殿は、天皇の元服や立太子礼、讓国の儀、節会などの儀式が行われた場所であり、後には即位礼の場所ともなった。平城宮にも同様の7×3間+四面廂の内裏正殿があったが、「紫宸殿」と呼ばれるのは平安宮以降であった。それまでは「大安殿」か「内安殿」と呼ばれていた。

**何が大事か：**「紫宸殿」を扱う場合、単に「平安宮の内裏の正殿にあたる建物」とするのではな

く、その建築様式や用途、歴史的変遷にも触れることが重要である。古代の考古資料の場合、史料に記された内容と、考古学的で確認された内容を総合して検討する必要がある。

**書き方の要点：**たとえば、「大安殿」もしくは「内安殿」から「紫宸殿」への名称の変更や、時代による用途の変化など、遺跡と史料の概要、歴史的意義をあわせて述べるとよい。知識を並べるのではなく、資料と論争の意義を関連づけて自分の理解を示すことが評価の中心となる。

### 問3—④解答例

飛鳥京跡苑池（奈良県明日香村）は、飛鳥時代の宮廷に附属する庭園遺跡である。飛鳥宮跡内郭の北西の河岸段丘下に造られ、北池と南池・水路から構成されている。北池は中島や導水石造物などが設置された水深の浅い池で、饗宴用の池と考えられる。一方、北池は水深が深く方形であることから、南池の調整池と考えられるが、祭祀施設などもあり、多様な要素を併せ持つものと考えられる。この庭園は、『日本書紀』天武14年条にある「白錦後苑」と推定されており、天皇が外国使節を供応するために使用されたと考えられる。このような本格的な庭園は、我が国では初めてで、当時の国際交流を示すものと考えられ、さらには日本庭園の源流に位置づけられている。

**何が大事か：**飛鳥京跡苑池を扱う際は、単に「飛鳥時代の宮廷に附属する庭園遺跡である」とするのではなく、その構造や特色に触れることが重要である。さらにこの庭園のもつ歴史的な位置づけや国際交流や日本庭園の源流にあることを示すことも重要である。

**書き方の要点：**飛鳥京跡苑池の立地などから、宮殿附属の庭園であること、その構造から北池と南池に分かれて用途が異なること、庭園の成立において国際交流が窺われること、後の日本庭園の源流になることなど、遺跡の概要と歴史的意義をあわせて述べるとよい。知識を並べるのではなく、資料と論争の意義を関連づけて自分の理解を示すことが評価の中心となる。

### 問3—⑤解答例

小栗栖瓦窯（京都府京都市）は山科盆地に立地し、複数の地下式窖窯からなる瓦専業窯である。法隆寺式軒丸瓦、紀寺式軒丸瓦のほか、結紐文垂木先瓦の出土が特筆され、7世紀段階で大和地域の瓦製作技術が導入されていたことを占める。小栗栖瓦窯の供給先は隣接する法琳寺と考えられることから、法琳寺はその造営が白鳳期に遡り、この山科・醍醐地域において大宅廃寺と並んで最古の寺院と考えられている。山科盆地は古来大和から近江地方へ向かう交通の要衝であった。奈良・興福寺の前身寺院である山階寺が営まれたことでも明らかのように中臣鎌足ら藤原氏の本拠地として開発が行われていたほか、天智天皇が葬られた山科陵が造営されるなど近江朝との関連も指摘されている。

**何が大事か：**瓦窯が考古学的見地からはどのような観点で検討するかを踏まえ、立地するや供給先など瓦窯がもつ考古学的意義に触れつつ論じることが重要である。

**書き方の要点：**瓦窯から派生して、その供給先や立地する山科地域の歴史的意味付けなど関連する分野を含めて記述するとよい。知識を並べるのではなく、遺跡と意義を関連づけて自分の理解を示すことが評価の中心となる。

### 問3—⑥解答例

高輪築堤（東京都港区）は明治初期に初めて鉄道が新橋－横浜間で開通した際、海上に線路を敷設するために海岸沿いに築造された鉄道のための堤で、石垣のように石を積んで護岸していた。文明開化の象徴として注目され、錦絵や写真などが多く残る。しかし、大正時代以降、開発による東京湾埋め立てにともない高輪築堤も地下に埋没した。近年計画された付近の大規模開発に伴う発掘調査によって、高輪築堤の遺構が検出され、残存状況が極めて良いことから世間でも注目を集めた。さらに、日本初の鉄道開通に伴う近代遺産・土木遺産として、考古学にとどまらず鉄道史・土木史などの分野からも大きく注目された。当初は調査後に遺構は壊されることになっていたが、学会や世論が政治を動かし、短時間で国史跡に指定され、一部は現地保存または移築保存されることが決まった。現在も開発に伴う調査は進行中であり、今後の遺跡保存の行方も注目される。

**何が大事か：**高輪築堤を扱う際は、単に鉄道遺構として論じるのではなく、その構造や特色に触れることが重要である。また、保存問題が大きくクローズアップされた遺跡でもあり、文化財の保存問題にも触れる姿勢が望まれる。

**書き方の要点：**高輪築堤が考古学だけではなく他分野においても注目されたこと、近代遺産や土木遺産といった視点も踏まえ、遺跡の概要と歴史的意義をあわせて述べるとよい。知識を並べるのではなく、資料と論争の意義を関連づけて自分の理解を示すことが評価の中心となる。

## 4. 文化財保護や活用関係

文化財の種類としては、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6種類に分けられています。埋蔵文化財が、これら6つの種類とは別に位置づけられている理由について、詳細に解説しなさい。

### （1）出題意図

本問は、修士課程での研究や将来の文化財調査・保存の実務において不可欠な、文化財保護行政における動向を認識しているのかを確認することを目的とする。文化財保護行政には、様々な職務があり、さまざまな文化財が文化財保護法によって定められている。このなかで、「埋蔵文化財」と「文化財の保存技術」だけが、6カテゴリーには含まれていない。これは文化財保護行政を行う上で重要な点であるので、その認識を問うものである。

### （2）解答例

本問の解答は、「埋蔵文化財」は、文化財の種類そのもので定められているのではなく、地下などに埋蔵されている状態を示している。よって、埋蔵文化財は発掘調査を行わなければ、その実態が明らかにはならず、検出した遺構は「記念物」に、出土した遺物は「有形文化財」に含まれていく。このように発見してはじめて、「記念物」か「有形文化財」かに属することになる。

**何が大事か：**「埋蔵文化財」は文化財の種類ではなく、埋蔵されている状態を示していること、そこで発見された遺構・遺物は「記念物」「有形文化財」に分かれていくことを認識することが大切である。また、埋蔵環境にあるため、発掘調査を実施しなければ、実態が把握できないことから、「埋蔵文化財」として調査の対象となっている。

**書き方の要点：**埋蔵されている状態であることから、調査をしないと文化財の種類が判断できないことを、論理的に順序立てて論述しているかが、評価の中心となる。

【(美) 美術工芸史学】

出題意図：博士前期課程学生に相応しい知識を有するかを問う。

1. 正倉院とその宝物について、特に国際性の観点から論述しなさい。

（正倉院とその宝物の概要を正しく示すことができるか、国際性の具体例をあげることができるか）

正倉院は、東大寺に所在する倉であるが、その中に納められた宝物は、光明皇后が聖武天皇の冥福を祈り、756年に東大寺に献上したものが核となっている。聖武天皇の遺愛品をはじめ、楽器、調度品、武器、染織品、薬物など多岐にわたり、1200年以上にわたり大切に守り継がれてきた。

奈良はシルクロードの終着点と言われることもあるが、正倉院宝物はその証左である。例えば正倉院宝物中の「瑠璃杯」は、その意匠や技術からみて、西アジアで制作されたとみられ、シルクロードを経由し、中国（唐）を経て、日本にわたってきた。そうした国際的な移動がみられる。

また、ギリシャ、ローマ文化に由来し、西アジア、中国を経て伝えられ文様を用いた染織品も多い。例えば、葡萄唐草文や「白椽綾錦几褥」に見られる椰子の巨樹、獅子とそれを御する半裸の男性像などの異国情緒あふれる文様である。

また、樹下の女性を描いた「鳥毛立女屏風」は、日本産のヤマドリを羽を貼り付けており、日本で制作されたとみられるが、豊頬で花鈿をつける唐代の理想的な女性像を用いて中国の神仙思想をあらわす。強く唐代文化の影響をうかがわせるものである。

奈良時代に日本で制作されたものも少なくないが、その技術や意匠は地中海文化、西アジアに起源をもち、朝鮮、中国を経て導入されたものである。こうした点において極めて国際的であるといえる。

2. 2019年の文化財保護法改正の趣旨・重要な変更点を述べなさい。

（文化財保護法改正についての正しい知識を有しているか）

改正の背景には、過疎化、少子高齢化により、未指定を含めた地域文化財の維持・管理が困難になり、滅失や散逸が急増している危機感がある。改正趣旨は、緊急課題である文化財の滅失や散逸等の防止のために、文化財を活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことである。そのために、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図る。

重要な変更点は、保存のみならず、地域振興・観光振興の資源として活かし、地域経済の活性化や地域への誇りの醸成につなげる活用を重視することである。

また、所有者だけに負担をかけず、行政、住民、民間団体などが連携して地域全体で文化財を次世代に引き継ぐ仕組みを作ることにある。

そのための具体策が創設された。

1. 市町村が、地域内の文化財を保存・活用するための包括的な計画（マスタープラ

ン)の策定

この計画が文化庁長官に認定されると、その計画に基づく事業に対し、国の予算支援を受けやすくなる。

## 2. 地方公共団体による登録制度の拡充

国の指定を受けていない未指定文化財について、市町村が独自に条例で登録し、活用や保全を支援する制度を法的に明確化。

## 3 無形文化財・民俗文化財の登録制度の創設

重要無形文化財・重要無形民俗文化財以外のものについて、新たに「登録」という制度が設けられた。

## 4. 文化財の活用に関する支援策の強化

重要文化財等を活用して観光や地域振興を行う場合、周辺環境の整備（トイレや駐車場の設置など）を促進する。

## 3. 日本美術における外国美術の受容とその展開について、特定の時代の具体的な事例を挙げて論じなさい。

（例として、日本中世絵画における宋代絵画の受容をあげるが、古代彫刻において中国、朝鮮の彫刻をどのように受容したのか、あるいは近代絵画において西洋絵画をどのように受容したのかなど、受験者の専門分野に近い事例を選んでかまわない。概要だけでなく、具体例をあげることが必要である）

鎌倉時代の絵巻物は、あまり抑揚のない輪郭線の内側を鉾物に由来する顔料で塗るという様式で描かれる作例が多い。例えば、「紫式部日記絵詞」（藤田美術館他蔵）や「寝覚物語絵巻」のような、いわゆる女絵と呼ばれる宮中生活や恋愛を主題とした絵巻物はその様式で描かれている。唐代絵画を受容しているが、その模倣にとどまらない。濃彩の上に、さらに金銀の加飾などもふんだんに用いる倭絵（やまとえ）の技法である。

それに対し、「華嚴宗祖師絵伝」（高山寺蔵）や「華嚴五十五所絵」（東大寺他蔵）のように、宋代絵画の特徴とみられる抑揚のある輪郭線と淡い彩色を用いる様式の作例もある。

また、「春日権現験記絵巻」（三の丸尚蔵館蔵）や「玄奘三蔵絵」（藤田美術館蔵）などのような寺社の由来や高僧の伝記をあらわす絵巻では、倭絵の様式で描かれつつも、画中画に達者な水墨画の山水図を取り入れる作例も見られる。

「一遍聖絵」（清浄光寺蔵・第7巻東京国立博物館蔵）の場合には、人物の衣服や建物は濃彩で描かれているが、遊行する聖の背景として描かれる山水の描写に、遠山を青く霞ませる空気遠近法や宋代の水墨画に由来する山肌の描き方（いわゆる斧劈皴）が見られる。例えば、2巻の岩屋寺の場面である。その一方、3巻の熊野の場面は、鳥瞰図的であり、いわゆる宮曼荼羅の形式を利用している。神社を描く際には、倭絵的な濃彩や俯瞰描写の構図で描く一方、対象によっては、宋代絵画のなかでも水墨による山水表現の特徴である空気遠近法的描写や斧劈皴を描きこむ。宋代絵画から日本絵画への一方的な影響関係ではなく、構図や技法を選択的に受容し、絵画製作にあたっていることがわかる。

## 4. 院政期（平安時代後期～鎌倉時代前期）の仏像様式の展開について論じなさい。

院政期（平安時代後期～鎌倉時代前期）の仏像様式は、11世紀に完成した定朝様の優美で穏和なスタイルを基調とするが、徐々に写実的で動感のある様式が芽生え、展開した時期である。

この時代の仏像様式の展開は、時期によって以下のように記述できる。

#### 1. 定朝様の継承と成熟（11世紀）

平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像の作者である定朝の確立した作風は一世を風靡し、12世紀初頭までその傾向は続く。満月の如しと称賛された、ふっくらとした円顔に柔和な表情と安定し均整の取れた体軀が特徴である。

#### 2. 定朝様からの脱却と新しい様式の萌芽（12世紀）

12世紀に入ると、定朝様の形式化した作品が増加する一方で、写実性に富み、彫りが深く、衣文の表現が変化に富む作例が登場する。例えば、長岳寺の阿弥陀三尊像のように、仏像の眼に水晶をはめ込み、生身のような輝きを持たせる玉眼の技法もその一例である。

興福寺を中心とする慶派の仏師たちは、古代彫刻の学習もふまえ、より写実的な要素を取り入れ始めた。

院政期の仏像様式は、定朝様の継承という保守的な側面と、写実・量感を追求する鎌倉様式への転換という革新的な側面が混在する、過渡期特有の展開を見せている。

<p>問1.</p>	<p>デジタル技術が文化財保存に果たす役割について、実例をあげて具体的に説明しなさい。</p> <p>デジタル技術とは、情報を数値で表現してデジタル機器で扱えるようにする技術、またはその技術を用いて現実世界のアナログな情報をデジタルデータに変換し、情報処理や通信を行う技術全般を指す。これにより情報の数値化や、身近なデバイスを使った情報のやり取り、世界規模での情報の共有化などが可能となる。</p> <p>文化財保存では、資料のデータベース化が挙げられる。近年では、大学や博物館で構築されたデータベースを一元的に活用できるシステム（ジャパンサーチ）なども運用されている。</p> <p>またデジタルの計測技術を使って正確な記録を作成することにより、損傷や劣化リスクの低減、物理的な制限を超えたアクセスや活用（公共化）、新たな価値創造（XRコンテンツ、複製品制作）に貢献する。これらの技術は、文化財を効率的に保護し、より多くの人々がアクセスできるようになることで、文化財の持続的な継承と社会的な価値の向上に繋がること期待される。</p>	<p>文化財活用に関する現代的な課題の把握程度を問う。</p>
<p>問2.</p>	<p>文化財の防災について、要因や対策を具体的に説明しなさい。</p> <p>日本は地震が多く、近年では地球温暖化の影響で台風や豪雨の被害も増加している。過去には東日本大震災や熊本地震などで多くの文化財が被害を受け、地域の歴史や伝統が失われる危機に直面した。文化財は単なる建造物や美術品だけでなく、無形文化財である演劇や音楽、工芸技術、さらには地中に埋もれている埋蔵文化財なども含まれる。これらの文化財を守るためには、災害に備えた対策が欠かせない。</p> <p>特に文化財への影響が大きくクローズアップされたのは1995年に発生した阪神淡路大震災である。建造物の被害はもちろん、絵画や古文書などの動産文化財、あるいは未指定文化財の被害も大きな課題となり、史料ネット、ヘリテージマネージャー、登録文化財制度創設など、様々な対策につながっている。更に2011年の東日本大震災では、地震だけでなく、その後の津波、原子力発電所事故の放射線など、幅広い被害が発生した。その後も、毎年のように各地で豪雨災害などが発生しており、文化財を取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。</p> <p>そのため国は2020年に独立行政法人国立文化財機構の本部施設として文化財防災センターを設置。日本各地の国立文化財機構の文化財研究所や博物館を対応窓口とする体制を構築し、文化財を災害から守るためのさまざまな活動を行っている。地域ごとの防災体制の構築、災害が発生した際のガイドライン整備、レスキュー活動や収蔵・展示における技術開発、さらには一般への普及啓発活動も積極的に行っている</p> <p>文化財の防災対策には、日頃からの備えと災害発生時の迅速な対応が不可欠である。</p> <p>平時の備えとして、文化財所有者のための防災対策マニュアルには、地震対策、風水害対策、防火・防犯対策などがまとめられている。自主点検リストや災害時の対応リストを活用して、普段から備えておくことが必要となる。また法改正による強化として、2018年の文化財保護法の改正により、都道府県は文化財保存活用大綱を、市町村は文化財保存活用地域計画を策定できるようになった。これらの計画には、文化財の防犯・防災についても記載することが求められており、地域全体で文化財を守る体制が強化されている。</p>	<p>文化財保存に関して近年大きな問題になっている課題の把握程度を問う。</p>
<p>問3.</p>	<p>下記の事項について<b>1つを選択し</b>、処理対象物の特徴を述べたうえで、その方法について具体的に説明しなさい。（水浸出土遺物の保存処理、金属製造物の保存処理、屋外にある石造文化財の保存処理、遺構の保存処理）</p> <p>水浸出土遺物の保存処理：水浸出土遺物とは、埋蔵環境下で水に浸かった状態で遺存している資料で、木製品や漆製品などの有機物が主である。このうち木製品は、木材を構成する細胞成分が微生物によって分解、消失し、水分が入り込んだ状態となっている。出土後、そのまま乾燥させると、表面張力によって弱った細胞組織が変形、収縮して資料の形状が変化してしまう。そこで、資料に含まれる水分を安定した物質に置き換える方法や、含まれる水分を資料に影響なく乾燥させる方法によって保存処理が行われる。前者では安定した物質としてポリエチレングリコールや人工糖類であるトレハロースが用いられる。これらを溶かした溶液に資料を浸漬し、徐々に濃度を上げて、資料に含まれる水分との置換を図る。後者では、低温環境下で水分を凍結させて、気圧を下げることで、固体から気体に状態変化する昇華という作用により乾燥させる。昇華では表面張力が作用しないため、変形、収縮することなく乾燥させることができる。これらの方法は、木製品の樹種や劣化度、作業環境などに応じて選択する。</p> <p>金属製造物の保存処理：日本で金属製品は弥生時代以降に使用、流通が始まる。その多くは鉄製品と、青銅を中心とする銅製品である。これらの金属製品は水、酸素、塩化物イオンなどの要因によって腐食（酸化）が進行している。保存処理では大きく、これら腐食の要因物質の排除と、資料を覆っている腐食生成物の除去、そして保護・強化と修復が行われる。腐食の要因物質除去では、水は乾燥することで取り除く。塩化物イオンは脱塩処理を行う。脱塩処理は鉄製品の場合はアルカリ水溶液中に資料を浸漬して塩化物イオンを溶出される方法が一般的であるが、硫酸イオンの除去が不十分となることもあり、高温高圧環境下で強制的に除去する装置も使われる場合がある。銅製品では塩化物イオンを不活性化させるベンゾトリアゾールに浸漬する方法が用いられる。腐食生成物はエブラシヤやグラインダーを用いて物理的に除去されるが、事前に透過X線撮影などで資料本来の形状を把握し、表面の詳細観察で付着物や使用痕跡などの有無を確認する事前調査が不可欠である。保護・強化は一般的にアクリル樹脂が用いられる。修復では接着剤による接合と、合成樹脂を用いた欠損補填が行われる。</p> <p>屋外にある石造文化財の保存処理：石造文化財のうち、鉱物同士の結合が弱く、空隙の多い石材は、風雨にさらされ、内部に水が染みこむ（流れる）ことにより劣化が進行しやすい。また塩類風化や凍結による結晶の体積膨張による破壊も起こりやすい。石材表面における地衣類の繁殖も、見た目の問題だけでなく、長期的には悪影響を及ぼす。</p> <p>風雨、特に水の影響や極端な温湿度変化を減らすために、覆屋の設置が手早い対策となる。樹脂強化をする場合は、有機物系の材料の場合、紫外線劣化が起こることから、エチルシリケート系の樹脂が用いられることが多い。また岩盤に掘られた摩崖仏などの場合、地下水の影響も懸念される。かつては地下水の流れを変えるような大規模な工事が行われた事例もある。</p> <p>遺構の保存処理：史跡の公開施設では、発掘調査で検出された遺構に覆屋を設け、そのまま露出させた状態で展示する手法が採られる場合がある。覆屋により風雨の影響は排除されるものの、経年劣化による遺構面の崩落などがあるため、インソアネット系などの合成樹脂により土壌の保護、強化が行われるのが一般的である。しかし地下の環境は様々であり、地下水位も季節によって変動する。そのため、地下水位が上昇すると藻類やカビが発生し、地下水位が低下して乾燥すると、土中の水分が蒸発する際に土壌表面で塩類が結晶化して、その際の体積膨張によって遺構面の崩壊が生じる。地下水位が恒常的に高い遺構では、土中の水分を固定化するポリシロキサンといった薬剤を散布する事例も見られるが、定期的な維持管理が必要となる。1970年代の静岡県浜松市蛸塚貝塚を皮切りに、全国で遺構の保存・展示施設が設けられているが、環境のコントロールなど維持管理が大きな課題となっている。</p>	<p>文化財の保存技術に関する基礎的な知識を問う。</p>

## 【解答に関する注意】

- ① 日本史学もしくは世界史学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ② 美術工芸史学、考古学もしくは保存修復学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ③ 英和辞典の持ち込み可(電子辞書は不可)。

(日本史学・世界史学を専攻するもの)

次の英文を冒頭引用文とその書誌も含めて全訳せよ。

<本文略>

(美術工芸史学・考古学・保存修復学を専攻するもの)

下の文書は奈良県キトラ古墳に関するものである。日本語に訳しなさい。

<本文略>

出典 : An Illustrated Companion to Japanese Archaeology: edited by Werner Steinhaus and Simon Kaner.(Archaeopress and the Editors 2016)

英語（日本史学・世界史学を専攻するもの）

【出題意図】

英語を正確に読解できるか。

【訳例】テオドシウス帝の時代に異教が廃れたことは、おそらく古代の民衆的迷信が完全に根絶された唯一の事例であり、それゆえ人類の精神史における特異な出来事として考察に値する。—ギボン『ローマ帝国衰亡史』第十八章

私の（著書の）題名にある最後の異教徒とは、四世紀末のローマ貴族を指す。彼らは壮麗なローマの邸宅と郊外の別荘群を行き来する日々を送っていたが、由緒ある家系はイタリア全土、北アフリカ、帝国の他の多くの地域に領地を所有し、数十万人の生活を支配していた。アウグスティヌスによれば、ヒッポ地方では「ある特定の貴族が改宗すれば異教徒は一人も残らない」と言われていた。当時の説教は常に地主に対し、所有地内の異教の聖域を破壊するよう促している。約 450 年頃には異教徒の貴族はほとんど残っていなかったと確信できる。しかし特定の家系における初期キリスト教徒に関する信頼できる証拠は極めて少なく、統計も改宗の記録もない。

【出題意図】古代の伝統的多神教から一神教のキリスト教への変換は東アジアでは見られない西洋史上の大きな変換であった。アラン＝キャメロンの研究は、この歴史的転回が大きな抵抗なく比較的早い段階で生じていたことを史料的に示した重要なものである。出題範囲はその冒頭部分のみであるが、受験者に問題関心を抱いてもらいたいと考えた。

英語（美術工芸史学・考古学・保存修復学を専攻するもの）

**【出題意図】**

英語を正確に読解できるか。

**【解答例】**

キトラ古墳は2段築成の円墳で、直径14m、高さ3mの円墳である。内部には長さ2.6m、幅1m、高さ1.3mで、高松塚古墳に似た石室が置かれている。1983年に石室内にカメラが入れられ、北壁に黒い武将の壁画が発見された。さらなる調査により、高松塚古墳と同様、キトラ古墳も四神と星座で装飾されていることが判明した。しかし、キトラ古墳は群像がない代わりに、壁の低い位置に中国由来の神人獣頭の12神像があった。この古墳は7世紀末～8世紀初頭に位置づけられる。

文化庁は2004～2013年にキトラ古墳から、カビによるさらなる損傷から守るため、すべての壁画を取り出した。木棺の破片、金銅の飾り金具、刀装具、人骨が発見され、被葬者は熟年男性であることが判明した。2013年に考古学的調査は終了し、墳丘は復元された。

## 【解答に関する注意】

① ①～⑤の中から1題を選択して解答せよ。

② 漢和辞典の持ち込み可 (電子辞書は不可)。

一

【問題】 次の史料は、『続日本紀』の養老四年(七二〇)の記事の一部である。これについて、次の各問に答えよ。

(一) 全文を漢字・仮名混じり文に書きくたせ。漢字は常用体、仮名は歴史的仮名遣いによることとし、文意が明確に取れるように適宜句読点等を施せ。

(二) 七・八行めの十月壬寅条に見える右大臣とは誰のことか。その姓名を答えよ。また、この日の条文の内容を簡潔に説明せよ。

冬十月戊子以從四位上石川朝臣石足爲左大辨從四位上笠朝臣麻呂爲右大辨從五位上中臣朝臣東人爲右中辨從五位下小野朝臣老爲右少辨從五位下大伴宿祢祖父麻呂爲式部少輔從五位下巨勢朝臣足人爲員外少輔從五位上石川朝臣若子爲兵部大輔正五位上大伴宿祢道足爲民部大輔從五位下高向朝臣大足爲少輔從五位上車持朝臣益爲主稅頭從五位上鍛冶造大隅爲刑部少輔從五位下阿倍朝臣若足爲大藏少輔從五位下高橋朝臣安麻呂爲宮内少輔從五位下當麻真人老爲造宮少輔從五位下縣犬養宿祢石次爲彈正弼從五位下大宅朝臣大國爲攝津守從五位下高向朝臣人足爲尾張守從五位上忍海連人成爲安木守丙申始置養民造器及造興福寺佛殿三司壬寅詔遣大納言正三位長屋王中納言正四位下大伴宿祢旅人就右大臣第宣詔贈太政大臣正一位十一月丙辰南嶋人二百卅二人授位各有差懷遠人也乙亥河内國堅下堅上二郡更号大縣郡

□次の史料（『大乘院寺社雜事記』応仁元年六月二日条）を読み下し、その大意を記せ。

一自随心院殿書状給之、京都之儀尚々珍事々々、就中家門儀御迷惑不可過之云々、京中売買不叶、然間食物類一向不叶、御迷惑無申計云々、禁裏・仙洞此御儀云々、今度御幡事日野内府申留之、仍自細川近日内府亭可焼払云々、内府亭堀被堀之、家門へも夫錢進之、大門・小門前二被成大堀畢、万一火事出来有之者、不可有御出之通之間、可及御生涯云々、珍事此事也、家門大門・小門御前も日々夜々合戦場也、□□公方御幡被尋処一色取之敵方二置之云々、仍俄二被織之由云々、今度両方相分大名等事、

三

次の史料は、大和国の村で明和二年に書き留められた幕府法令の一部である。条文を翻刻し、そこから読み取れる近世日本社会の特徴を論じよ。

一 鉄炮成糶所同之威  
 鉄炮成糶所外村中不  
 下徳者若徳者其之  
 其子之字出以徳鉄  
 炮成糶又之通相得得  
 成糶所之方安用其  
 一 百姓等口徳停止其

左の写真は明治十一年（二八七八）三月の堺県布達である。①全文を読み下しにし、②いかなることが問題になっているのか、読み取れることを説明せよ。その際、史料にある「醜業」「席貸営業」「明治五年壬申十月第二十二号」の語彙については必ず言及すること。

縣乙第三十號

區戸長

遊妓ノ稼ギヲ爲スハ父母等貧困ニシテ外ニ生  
 活ノ道ナキヨリ情實不得止ニ出ヅル醜業ニテ  
 之レヲ婦女ノ正業トナス可カラザルハ勿論ノ事  
 ニ候處近來席貸營業ノ者無謂人ノ子女ヲ貫受  
 ケ養女或ハ同居等ト名稱シ養父母等ヨリ遊妓  
 營業爲致候者多々有之右ハ明治五年壬申十月  
 第二十二号ヲ以テ司法省ヨリ布達相成候趣意  
 ニモ低觸候條自今右様之儀決シテ無之様其業  
 之者へ無洩可相違事

明治十一年三月十六日

堺

縣

五

次の漢文を現代語訳せよ。

大業中，突厥圍煬帝鴈門，煬帝從圍中以木繫詔書，投汾水而下，募兵赴援。太宗時年十六，往應募，隸將軍雲定興，謂定興曰：「虜敢圍吾天子者，以為無援故也。今宜先後吾軍為數十里，使其晝見旌旗，夜聞鉦鼓，以為大至，則可不擊而走之。不然，知我虛實，則勝敗未可知也。」定興從之。軍至崞縣，突厥候騎見其軍來不絕，果馳告始畢可汗曰：「救兵大至矣！」遂引去。

【史料問題】

【出題意図】

文献史料を正確に読解できるか。

史料一

【問題】次の史料は、『続日本紀』の養老四年（七二〇）の記事の一部である。これについて、次の各問に答えよ。

- (一) 全文を漢字・仮名混じり文に書きください。漢字は常用体、仮名は歴史的仮名遣いによることとし、文意が明確に取れるように適宜句読点を施せ。
- (二) 七・八行めの十月壬寅条に見える右大臣とは誰のことか。その姓名を答えよ。また、この日の条文の内容を簡潔に説明せよ。

【解答例】

(一)

冬十月戊子、従四位上石川朝臣石足を以て、左大弁と為す（「左大弁とす」でもよい。以下同様）。従四位上笠朝臣麻呂を右大弁と為す。従五位上中臣朝臣東人を右中弁と為す。従五位下小野朝臣老を右少弁と為す。従五位下大伴宿祢祖父麻呂を式部少輔と為す。従五位下巨勢朝臣足人を員外少輔と為す。従五位上石川朝臣若子を兵部大輔と為す。正五位上大伴宿祢道足を民部大輔と為す。従五位下高向朝臣大足を少輔と為す。従五位上車持朝臣益を主税頭と為す。従五位上鍛冶造大隅を刑部少輔と為す。従五位下阿倍朝臣若足を大蔵少輔と為す。従五位下高橋朝臣安麻呂を宮内少輔と為す。従五位下当麻真人老を造宮少輔と為す。従五位下県犬養宿祢石次を弾正弼と為す。従五位下大宅朝臣大国を摂津守と為す。従五位下高向朝臣人足を尾張守と為す。従五位上忍海連人成を安木守と為す。

丙申、始めて養民・造器、及び造興福寺仏殿の三司を置く。

壬寅、詔して、大納言正三位長屋王・中納言正四位下大伴宿祢旅人を遣はして、右大臣の第に就きて、詔を宣し、太政大臣正一位を贈る。

十一月丙辰、南嶋の人二百卅二人に位を授くること、各差有り。遠人を懐くなり。

乙亥、河内国堅下・堅上二郡を更めて、大県郡と号す。

(二)

藤原不比等。

大納言正三位長屋王と中納言正四位下大伴宿祢旅人を故藤原不比等宅に派遣し、天皇の詔を伝えて故藤原不比等に「太政大臣正一位」を追贈した。

史料二

別紙史料 02 参照

□次の史料『大乘院寺社雜事記』応仁元年六月二日条)を読み下し、その大意を記せ。

一 自随心院殿書状給之、京都之儀尚々珍事々々、就中家門儀御迷惑不可過之云々、  
京中売買不叶、然問食物類一向不叶、御迷惑無申計云々、禁裏・仙洞此御儀云々、  
今度御幡事日野内府申留之、仍自細川近口内府亭可焼払云々、内府亭堀被堀之、  
家門へも夫錢進之、大門・小門前二被成大堀畢、万一火事出来有之者、不可有御  
出之通之間、可及御生涯云々、珍事此事也、家門大門・小門御前も日々夜々合戦  
場也、□□公方御幡被尋処一色取之敵方ニ置之云々、仍俄ニ被織之由云々、今度  
両方相分大名等事、

〔読み下し〕

一、随心院殿より書状これを給う、京都の儀なお珍事珍事、なかんずく家門の儀御迷惑これに過ぐべからずと云々、京中売買叶わず、しかるあいだ食物類一向叶わず、御迷惑申すばかりなしと云々、禁裏・仙洞この御儀と云々、今度御幡のこと、日野内府これを申し留む、よって細川より近日内府亭焼き払うべしと云々、内府亭堀これを掘らる、家門へも夫錢これを進む、大門・小門前二大堀なされおわんぬ、万一火事出来これあらば、御出での通あるべからざるのあいだ、御生涯に及ぶべしと云々、珍事このことなり、家門大門・小門御前も日々夜々合戦場なり、□□公方御幡尋ねらるところ、一色これを取り敵方にこれを置くと云々、よってにわかこれを織らるよしと云々、今度両方大名ら相分かること、

〔大意〕

随心院より到来した書状によれば、京都のようすは以下のようにであった。たとえば、尋尊の実家である一条家では、戦乱により京都で売買がおこなわれなくなり食物も手に入らず困っているという。それは禁裏や仙洞でも同じようだ。細川(勝元)方が將軍の御幡下賜を申請したところ、それを内府(日野勝光)が阻止したということで、内府屋敷が焼き払われるといううわさが流れた。内府屋敷では、そのため大門・小門に大きな堀を掘り防御しようとしたものの、万一、内部から火事が出れば死ぬしかないというありさまだ。一条家の大門・小門前でも毎日合戦が繰り広げられている。例の御幡は、一色氏が奪い敵方にあるとのことで、いそぎ新たに織ることになったという。大名らが二手に分かれ京都のなかで合戦がつついでいる。

史料三

一、鉄炮之儀、獵師筒、又者威鉄炮渡置候外、村中ニ不可隠置。若隠置候者有之者、早々可申出候。拝借鉄炮之儀、証文之通、相心得、暫茂貸シ借り可為無用事。

一、百姓帯刀堅停止之事。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世日本の村人は、秀吉の「刀狩り」によって、武器をすべて取り上げられて「丸裸」にされていたのではなく、むしろ鉄砲などの武器は「持っている」ことが、幕府法令でも前提とされていること

☆ただし、武器所持は「自由」だったのではなく、幕府が村人たちへ鉄砲を「貸し渡す」（村人たちが幕府から「拝借」する）という体裁をとった「許可制」であったこと

☆幕府法令で禁止されている「帯刀」とは、脇差などの「小刀」も含めた「刀」一般ではなく、武士という身分を視覚的に示す「長刀の二本差し」を意味していたこと

☆身分制における武士と百姓の差は、武器を「持っているか否か」にあったのではなく、鉄砲所持の許可制や、長刀の二本差しの禁止に示されるように、武器の「利用のされ方」にあったこと

史料四

別紙史料 04 参照

① 読み下し

県乙第三十号

区戸長

遊妓の稼ぎを為すは父母等貧困にして、外に生活の道なきより、情実止むを得ざるに出づる醜業にて、これを婦女の生業となすべからざるは勿論の事に候処、近来席貸営業の者、謂われなく人の子女を買い受け、養女或いは同居等と名称し、養父母等より遊妓営業致させ候者多々これ有り、右は明治五年壬申十月第二十二号を以て司法省より布達相成り候趣意にも低<sup>低</sup>触候条、自今右様の儀、決してこれ無き様、其の業の者へ漏れなく相達すべき事

明治十一年三月十六日

堺県

※読み下しは片仮名でも可

② 概要

明治五年のいわゆる「芸娼妓解放令」により、前借金によつて妓楼での遊女奉公を余儀なくされた女性は解放されたが、「芸娼妓解放令」では元遊女たちの生活保障はなく、性売買そのものを否定するものではなかった。そこで、性売買を行う場所を提供する形態をとる「貸座敷」を営業するものが、女性を養女として性売買を行わせる事例が多くあった。本史料は、堺県はこうした営業形態も含めて法の趣旨に抵触するのではないようにと通達したものである。

※「醜業」とは性売買のことをいい、司法省の明治五年十月第二十二号布達は同年十月二日のいわゆる「芸娼妓解放令」（太政官布達二九五号）を受けたものである。

本史料読解の要諦は、これが「芸娼妓解放令」を経てなお妓楼主が貸座敷などのかたちで経営を続けていたことを示す史料であることに気付くことにある。

史料五

漢文

【解答】(隋の)大業年間に、突厥が煬帝を雁門で包囲した。煬帝は包囲の中から、木切れに詔書をくりつけて汾水に投げ、兵を募って救援を求めた。(唐の)太宗はその時 16 歳で、募兵に応じて將軍雲定興に従っていた。(太宗は)定興に言った。「北虜が我が天子を困むのは、たいした応援がないと思っているからです。今、我が軍を前後に数十里にわたって引き延ばし、日中には軍旗を見せつけ、夜は鉦太鼓を打ち鳴らせば、(敵は)大軍がやってきたと思い、戦わずに逃げ出すでしょう。さもなくば、我が軍の事情をよく知っているはずで、戦ったとて勝てるとは限りません。」定興はこれに従った。軍が崞県に至ると、突厥の哨兵はその軍が長々と続くのを見て、はたして早馬を飛ばして、「援軍が大勢やってきました」と始畢可汗に報告し、遂に兵を退いて去った。

**【解答に関する注意】**

- ① 下記の要領で「正」「副1」「副2」として計3問を選択し、それぞれ所定の解答用紙に1問ずつ解答を記入してください。「正」は100点満点、「副1」「副2」はそれぞれ50点満点、合計200点満点で採点します。
- ② 「正」としては、志望する分野（志願票に記入した専攻分野）の問題群の中から、1問を選択し、解答区分欄「正」の解答用紙に記入してください。
- ③ 「副1」「副2」としては、すべての問題群（分野は問わない）の中から、2問を選択し、解答区分欄「副1」「副2」の解答用紙に1問ずつ記入してください。なお、「正」に選択した問題を再び選択することはできません。
- ④ 各解答用紙の分野・問題番号欄には、そこで解答する問題の分野・問題番号を記入してください。
- ⑤ 解答は枠内に横書きで記入し、裏面まで使用するときは、下枠外の「裏面へ」に○印をつけてください。

**【(日)日本史学】**

- (1) 日本古代史研究における、天聖令発見の意義について論ぜよ。
- (2) 日本古代における地方行政組織の概要とその変遷について述べよ。
- (3) 鎌倉幕府と東大寺の関係について述べよ。
- (4) 一揆契状とは何か説明せよ。
- (5) 中世・近世日本の村人たちによる武器の所持と行使について、具体的に論じよ。
- (6) 中世～近代日本で、村落自治が税制と農業生産において果たした役割を具体的に論じよ。
- (7) 1885年(明治18)3月16日付『時事新報』に後に「脱亜論」の名で知られることになる社説が発表された。筆者は福沢諭吉といわれている。この「脱亜論」の内容について説明せよ。
- (8) 1888年(明治21)4月に市制・町村制が公布され、翌89年4月から施行された。この法律の歴史的意義について、「地方自治」という言葉を必ず用いて説明しなさい。
- (9) 日中戦争(「支那事変」)の勃発と拡大について、その発端から「国民政府を相手とせず」声明の発出に至るまでの日本の動向に焦点を当てて、できるだけ詳しく論述せよ。
- (10) 1960年代から70年代初めにかけての高度経済成長と社会の変容、人びとの暮らし、大衆文化について、できるだけ多面的に論述せよ。

**【(世)世界史学】**

- (1) 海禁について、東アジア史全般を視野に入れて説明せよ。
- (2) 明末清初の中国について知るところを述べよ。
- (3) 中央アジアのオアシス諸都市の中から具体的な都市をひとつ挙げ、その歴史と社会について知るところを述べよ。
- (4) 7世紀中頃に始まったアラブ・ムスリムの中央アジア・南アジア進出について、その歴史と特徴について知るところを述べよ。
- (5) 神聖ローマ帝国について知るところを述べよ。
- (6) 古代エジプト新王国について知るところを述べよ。
- (7) フランス革命がヨーロッパ諸国に与えた影響について説明せよ。
- (8) 戦間期(第一次世界大戦終結から第二次世界大戦勃発まで)のヨーロッパ国際関係について説明せよ。
- (9) アメリカの「フロンティアの消滅」と海外への膨張について論ぜよ。
- (10) 第二次世界大戦について論ぜよ。

**【(考)考古学】**

- (1) 考古学における遺構や遺物の構築技法や製作技法について、具体的な遺構や遺物を取り上げて論じなさい。
- (2) 次の語群①～⑦のうちから一つ選び、論じなさい。  
①細石刃      ②鉄剣      ③陶質土器  
④大壁建物      ⑤桶巻づくり      ⑥経塚  
⑦楔形文字
- (3) 次の語群①～⑦のうちから一つの遺跡を選び、論じなさい。  
①翠鳥園遺跡      ②滋賀里遺跡      ③楯築遺跡  
④黒塚古墳      ⑤法隆寺若草伽藍      ⑥菅原遺跡  
⑦トロイ遺跡
- (4) 世界遺産を目指す「飛鳥・藤原の宮都」は、正式版推薦書をユネスコに提出しました。その構成資産となる19の資産について、すべての資産名を記しなさい(すべてを答えないと採点対象になりません)。

## 【(美)美術工芸史学】

(1) 日本美術において、金色(金箔・金泥等)を効果的に用いた作例を一つ挙げ、その表現の特徴と美術史的な位置づけについて述べなさい。

(2) 次の仏像のなかから一つを選び、その表現の特徴と美術史的な位置づけについて述べなさい。

- ①飛鳥寺 釈迦如来坐像
- ②東大寺 不空罽索観音立像(法華堂安置)
- ③観心寺 如意輪観音坐像
- ④平等院 阿弥陀如来坐像 定朝作
- ⑤願成就院 阿弥陀如来坐像 運慶作

(3) 日本美術あるいは中国美術において重要な要素である線描について、絵師や画家がどのように対処したのか、具体的な作例を一つ挙げて論じなさい。作品の制作年代は問いません。いつの時代の作品でもよく、比較のためであれば複数の作品をあげることもかまいません。

## 【(保)保存修復学】

(1) 文化財研究における保存科学・文化財科学の役割と理念について、考えを述べなさい。

(2) 下記の分析装置、測定装置、保存処理装置から一つを選び、その原理と文化財への具体的な適用性を述べるとともに、あなたの研究課題に応用した場合に得られるであろう成果について述べなさい。

- ①蛍光 X 線分析装置
- ②X 線回折分析装置
- ③X 線透過撮影装置
- ④X 線 CT 装置
- ⑤電子顕微鏡
- ⑥デジタルマイクロスコープ
- ⑦赤外線カメラ
- ⑧赤外線分光分析装置
- ⑨真空凍結乾燥機

(3) 文化財の IPM について述べなさい。

【出願意図】

専門分野及びその関連分野について、研究遂行上、必要な基礎的知識を修得しているか

【(日) 日本史学】

問一. 日本古代史研究における、宋天聖令発見の意義について論ぜよ。

一九九九年に中国寧波の天一閣博物館における宋天聖令の発見が伝えられてから四半世紀が経過したが、当該史料をめぐる研究はいまなお進行中である。また受験者の問題関心に応じた当該課題への取り組み姿勢を問うのが出題の主旨である。したがって、受験者それぞれの研究分野、問題関心によって、さまざまな観点からの解答が可能であり、一つの正解を求めるものではない。しかし、解答の前提として、①発見された天聖令は宋代の令であり、そのおよそ末尾三分の一ほどにあたる一二の篇目が残ること。②宋代の令でありながら、宋代に削除された唐令の条文も「不行唐令」として収録しているため、各条文を当初の位置に戻す手続きを踏めば、遺存篇目に関する限り、従来復元研究でしかわからなかった唐令の全貌を明らかにし得ること。③その結果、日本の大宝令・養老令と、それらがモデルにした唐令との比較検討が可能となり、日本の律令制の特徴、ひいては日本古代律令国家の形成過程の考察に寄与する重要な素材を提供すること、などの点を記述してほしい。以上を踏まえた上で、受験者の問題関心にしたがって、いずれかの篇目ないし条文について、新発見の可能性を述べる各論の記述の付加があればベストである。

問二. 日本古代における地方行政組織の概要とその変遷について述べよ。

①日本古代における地方行政組織の基本は、クニ—コオリ—サトの三層構造を基本としていること、②七世紀半ばに在地の豪族の支配領域や大和王権の直轄地を基礎として全国一斉にコオリが設定され(立評)、その後やや遅れてコオリを複数束ねる形でクニが設定され、またコオリを細分する形でサトが設定されるというように、その成立は段階的になされたこと、③七世紀段階は、国—評—里(当初は五十戸)と表記した(評制)が、七〇一年の大宝令施行に伴い、国—郡—里に変更されたこと(里制)、④七一七年頃、サトの下にコザトを置く郷里制が施行され、サトは里から郷に表記を改められ、里をコザトの表記とする、いわゆる郷里制が施行されたこと、⑤七四〇年頃、コザトが廃止され、以後は国—郡—郷を基本とする郷制に変わり、中世にまで至ること、⑥コオリの行政は在地の豪族を郡司に任じて直接的な民衆把握を担わせる一方、クニには中央から国司を派遣し郡司を監督して国務を担わせる二重構造になっていたこと、⑦九世紀以降郡司層が徐々に力を失い、国司が直接在地を把握する体制に転換していったこと、などを中心に記述してほしい。

問三. 鎌倉幕府と東大寺の関係について述べよ。

【採点基準】

- ・鎌倉幕府(源頼朝)による東大寺再建について概要とその意義について触れていることが合格点に至るための基本要件である。頼朝のほか重源、後白河上皇など主要人物の名が記され、また意義については、鎮護国家の寺である東大寺に再建に頼朝が関与することの意味についての論及はほしい。
- ・鎌倉時代後期に至り、「悪党」問題など荘園経営の危機にかかり、朝廷を経由し、あるいは直接交渉によって幕府の軍事的支援を得ようとしたことなどに論及があれば加点する。

問四. 一揆契状とは何か説明せよ。

- ・一揆の語義（心身にわたる相互規制を前提とした盟約の締結とその遵守・行動など、武力蜂起は行動様式のひとつ）が理解されたうえで、盟約の内容を（多くは）条書し、起請文（牛王宝印の紙背を使用することが多い）を添えて作成された文書であることが理解され、正確に記されていることが合格点に至る基本要件である。
- ・国人一揆、宗教一揆、徳政一揆など様々な一揆の形態によって契状の様式も異なることや、契状・起請文を焼いて神水（神前に供えた浄水）に溶いて皆で飲むといった「作法」について論及があれば加点する。ただ、一揆の諸形態と契状の仕様すべてに論及することは求めない。

問五. 中世・近世日本の村人たちによる武器の所持と行使について、具体的に論じよ。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

- ☆自力救済が当然視された中世では、水論や山論といった生活存立に直結する争論の場で、双方が武器を取り合って、戦争状態になることが珍しくなかったこと
- ☆同じ村のなかで、武器を所持し、行使する点では共通しても、「村の外まで出て戦争に参加する」身分（侍）と、「あくまで郷土防衛に徹する」身分（凡下）が分かれていたという、「中世的兵農分離」を理解できていること
- ☆近世の村人は、秀吉の「刀狩り」によって、武器をすべて取り上げられて「丸裸」にされていたのではなく、むしろ刀や鉄砲などの武器は、当たり前のように所持していたこと
- ☆ただし、武器所持は「自由」だったのではなく、幕府が村人たちへ鉄砲を「貸し渡す」（村人たちが幕府から「拝借」する）という体裁をとった許可制であったこと
- ☆「帯刀」も許可制であったが、そこでいう「刀」とは、脇差などの「小刀」も含めた「刀」一般ではなく、武士という身分を視覚的に示す「長刀の二本差し」を意味していたこと

問六. 中世～近代日本で、村落自治が税制と農業生産において果たした役割を具体的に論じよ。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

- ☆古代の律令国家では、納税責任は「個人」にあったのが、14世紀以降、徐々に「村」が納税責任を負うようになり、17世紀以降の近世では、年貢の村請が支配方式の軸となること
- ☆中世から近代に至るまで、用水管理や灌漑施設の維持・管理、山野の利用ルール、村内の道橋の整備など、農業生産を支える諸種の部面が、村落自治で運営されていたこと
- ☆納税責任が「個人」におかれた近代でも、村落部における徴税と納税では、なお「近代版の村請」が機能していたこと
- ☆産業組合といった諸種の近代的な組織も、旧近世村単位の自治を前提としていたこと

問七. 1885年（明治18）3月16日付『時事新報』に後に「脱亜論」の名で知られることになる社説が発表された。筆者は福沢諭吉といわれている。この「脱亜論」の内容について説明せよ。

【解答例】脱亜論とは、日本が独立を達成するには、アジア的な社会体制と訣別し、西洋文明を導入して列強に存在を認めさせることが肝要であるとする主張のこと。その実現のために

は、旧弊から脱しようとしめない中国や朝鮮などと同類であると列強からみなされないように努めるだけでなく、列強による分割が行われる場合には、これに加わることも辞すべきでないとの論が展開された。脱亜論は、アジア諸国との連帯をめざすアジア主義と並ぶ思潮として、近代日本のアジア観に影響を与えていった。

【評価基準】 脱亜論の内容を正しく把握できているか。近代日本のアジア観の重要な一つとして意義が理解できているか。

問八. 1888 年（明治 21）4 月に市制・町村制が公布され、翌 89 年 4 月から施行された。この法律の歴史的意義について、「地方自治」という言葉を必ず用いて説明しなさい。

【解答例】 市制・町村制は、近代日本の地方自治の基本を定めた法律。1888 年 4 月に公布され、翌 89 年 4 月以降、各地方の状況を考慮しながら施行していくこととされた。明治政府は、中央集権制のもとで効率的な行政を推進するため、近世の村請制のもとで維持されていた多くの町村を合併し、規模の大きな地方行政組織を作ろうと考え、憲法制定と帝国議会開設を前提に、地方統治の構造を固める目的で制定していった。このようにして誕生した市・町村は、自治権が弱く、名誉職・等級選挙制などを背景に有力者による支配が行われたが、その後の数次の市制・町村制の改正によって、有権者も増加し、第二次大戦後の地方自治法にもとづく地方自治体の基礎ともなる行政体を徐々に形成していった。

【評価基準】 市制・町村制の内容を正しく把握しているか。現代に続く地方行政の歴史のなかに位置づけて理解できているか。

問九. 日中戦争（「支那事変」）の勃発と拡大について、その発端から「国民政府を相手とせず」声明の発出に至るまでの日本の動向に焦点を当てて、できるだけ詳しく論述せよ。

【出題意図】 高校の教科書でも概説されている重要事項であり、大学までの学びをふまえた確かな理解・素養を持ち合わせているかを見定めるために出題した。

【解答のポイント】 日中戦争（「支那事変」）の発端となったのは、1937（昭和 12）年 7 月 7 日に北京（当時は北平）郊外で起こった盧溝橋事件である。まず、この事件の概要を述べる。続いて、現地（出先）ではいったん、停戦協定がまとまったにもかかわらず、戦火が拡大した経緯・背景を、本国内の政策決定過程（内閣と軍部、とくに陸軍中央の動向）と絡めて説明する。その後、戦火が北京方面（華北）だけでなく、上海方面（華中）にも拡大していく経緯を、陸軍だけでなく海軍の動向にも目を向けて述べる。また、戦火拡大の一方で、和平工作も試みられていることは見落とせない。なかでも、ドイツを仲介とする工作、いわゆる「トラウトマン工作」は外せないので、「トラウトマンとは何者か」「なぜ、ドイツが仲介役となったのか」「日本側では誰（どこ）が和平工作の推進者だったか」を含めて述べる。そのうえで、和平工作が結果的には実ることなく、1938 年 1 月の「国民政府を相手とせず」声明（第 1 次近衛声明）発出に行き着いた経緯を説明してほしい。

問十. 1960 年代から 70 年代初めにかけての高度経済成長と社会の変容、人びとの暮らし、大衆文化について、できるだけ多面的に論述せよ。

【出題意図】 高校の教科書でも概説されている重要事項であり、大学までの学びをふまえた確かな理解・素養を持ち合わせているかを見定めるために出題した。

【解答のポイント】 まず、「高度経済成長」といわれる事象それ自体について、政治・政策上の要因・

背景も含めて説明し、成長の具体的な中身(成長を先導した産業部門、技術やエネルギーの革新、企業経営のあり方などを)概観してほしい。そのうえで、大量生産・大量消費社会化が全国規模で進んでいくなか、衣・食・住に見るライフスタイル、テレビの普及に代表されるマスメディアの新展開、それと関わる娯楽・余暇の過ごし方について詳述する。加えて、高度成長が社会にもたらした影の側面にも目配りしてほしい。具体的には、大都市における過密、地方の農山漁村における過疎、そして、各種の公害(最たる例は産業公害)である。さらに、高度成長下の大衆文化について、「若者(青年)文化」に目を向ければ、「ベトナム戦争とアメリカへのまなざし」という視点で論述することもできるだろう。

【(世) 世界史学】

問一. 海禁について、東アジア史全般を視野に入れて説明せよ。

海禁という政策の基本的な意味を説明し、中国におけるその歴史的概要と、東アジアの通交関係に与えた影響の概要について記述できれば 60/100 点。さらに、それが朝鮮・ベトナム・日本など、中国文明の影響下にあった東アジア諸国でも施行されたことなど、情報の追加と記述の精粗に応じて加点。

問二. 明末清初の中国について知るところを述べよ。

16 世紀後半から 17 世紀前半にかけての中国の政治・社会・経済・文化に関して、ひとつおりの特徴が述べられていれば 60/100 点。記述が一面に偏向する場合、程度に応じて減点。北虜南倭・宦官の専権・一条鞭法の改革・商業経済の発展・書籍出版の隆盛・満洲人の台頭・遷界令や辮髪強制など、具体的な記述の精粗に応じて加点。

問三. 中央アジアのオアシス諸都市の中から具体的な都市をひとつ挙げ、その歴史と社会について知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：主要なオアシス都市名（サマルカンド、ブハラ、メルヴ、バルフ、コータン、クチャ、トルファン、敦煌など）、定住民、遊牧民、交流、交易、市場、灌漑農耕、宗教（仏教、マニ教、ゾロアスター教）、支配者（王、領主）、美術（壁画、彫刻など）、言語（ソグド語、バクトリア語、ガンダーラ語、トカラ語、コータン語、トゥムシュク語、漢語など）

問四. 7 世紀中頃に始まったアラブ・ムスリムの中央アジア・南アジア進出について、その歴史と特徴について知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：正統カリフ時代、ウマイヤ朝、アッバース朝、サーサーン朝、ホラーサーン総督府、バスラ、メルヴ、バルフ、改宗、ハラージュ、ヒンドゥー教徒、仏教徒、インダス川流域、イラン南部、アラビア語文献・文書

問五. 神聖ローマ帝国について知るところを述べよ。

中世西欧のキーワードでもある神聖ローマ帝国について、以下の要点についての基礎知識があるかが判定基準となる。

・神聖ローマ帝国の始まりについて

—「神聖」というのはあくまで数ある修飾語句のひとつにすぎず、ローマ教皇が西欧に再建しようとした「ローマ帝国」のことであるという知見はあるか。

—この知見からすると 962 年のオットー 1 世戴冠はひとつの区切りに過ぎず、それに先立つ 800 年のフランク王カールの戴冠も神聖ローマ帝国起源のひとつであるとの見方も根強いとの知見があるか。

—神聖ローマ皇帝誕生について、教皇と戴冠される王のどのような利害の一致があったか説明可能か。

一オットー以降の神聖ローマ帝国についての知見は十分か。

→教皇グレゴリウス 7 世と皇帝ハインリヒ 4 世との聖職叙任権闘争

→カール 4 世の金印勅書と諸侯の自立

→選帝侯とハプスブルク家の皇帝位寡占

一近世近代の形骸化と消滅について説明できるか。

【出題意図】ハプスブルク家や神聖ローマ帝国は近代国民国家成立以前のヨーロッパを知るうえで重要なファクターであり、現代に至るドイツ・中欧のさまざまな民族や国境をめぐる問題の起源や背景を成しており、その知見を問う。

問六. 古代エジプト新王国について知るところを述べよ。

古代エジプトといえば古王国第 4 王朝のピラミッドが真っ先に思い浮かぶが、じっさいには前 1570 年頃～1070 年頃にかけての新王国時代が古代エジプト文明の最盛期で、外民族のヒクソスを撃退後、逆に北はシリア、南はヌビアに進出・征服して最大領土に達したほか、多くの神殿の建設や宗教改革が行われ、それらを推進した個性豊かなファラオで知られる。それらについて、以下の要点を抑えられているかが判定基準となる。

・第 17 王朝から第 18 王朝によるヒクソスを追放と、エジプト再統一が説明できる。

・ハトシェプスト女王の統治とその葬祭殿について知見があるか。

・その子トトメス 3 世がエジプト最大領土を達成したことへの知見はあるか。

・アメンホテプ 4 世（イクナートン）と妃ネフェルトイティによる宗教改革（アマルナ革命）が同じ 18 王朝で起こったことについて説明できるか。

・ツタンカーメンもこの時代であるほか、第 19 王朝のラムセス 2 世が長期にわたって勢威を保ち、小アジアのヒッタイトと戦い、世界最初の外交条約と称される和平条約と結んだことなどについての知見があるか。

【出題意図】古代エジプトについて、一定程度の基礎知識を有しているかを確認する。

問七. 問七. フランス革命がヨーロッパ諸国に与えた影響について説明せよ。

以下 2 つについて述べられていること。

①ヨーロッパ諸国（スイス、オランダ、スペイン、イタリア、ドイツ、オーストリア、ポーランド、ロシア、イギリス）に対する革命戦争・ナポレオン戦争の経緯、ならびに、その戦争がこれらヨーロッパ諸国に与えたそれぞれの政治的影響について

②ウィーン会議と「ウィーン体制」について

問八. 戦間期（第一次世界大戦終結から第二次世界大戦勃発まで）のヨーロッパ国際関係について説明せよ。

戦間期のヨーロッパ国際関係における以下の事項について説明がなされていること。

「大戦後の諸条約に基づく戦後処理によって生じた国境変更と国家の消滅・成立」「ロシア革命への各国の関与とソ連邦成立後のヨーロッパ諸国との関係」「ドーズ案によるドイツ賠償問題の沈静化、ならびに、ロカルノ条約締結によるヨーロッパ国際関係の安定」「世界恐慌がヨーロッパ諸国に与えた政治的、経済的影響」「イタリア、ドイツにおけるファシズム政権の成立、その外交政策と周辺諸国の対応」「スペイン内戦と各国の関わり」「1938 年から

1939年9月の第二次世界大戦勃発までの、ドイツと周辺ヨーロッパ諸国との関係」

問九. アメリカの「フロンティアの消滅」と海外への膨張について論ぜよ。

- ・アメリカの「フロンティアの消滅」と海外への膨張について、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・アメリカ先住民の歴史、非統治国・地域の状況など、具体的内容に焦点を当て、専門的に論じているところを加点する。
- ・マッキンリー大統領の具体的対外政策について論じていれば加点する。

問十. 第二次世界大戦について論ぜよ。

- ・第二次世界大戦に関する基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・史料・証言などを使用した実証的研究を反映して論じているところを評価する。
- ・第二次世界大戦は総力戦であり、さまざまな側面から論ずることが可能であるため、原爆の開発、ホロコースト、戦時下の生活、プロパガンダなど、具体的内容に焦点を当て、専門的に論じているところを加点する。

## 2025年度 大学院春季入学試験（出題意図、解答例） 文化財史科学専攻（博士前期）

1. 考古学における遺構や遺物の構築技法や製作技法について、具体的な遺構や遺物を取り上げて論じなさい。

### （1）出題意図

本問は、修士課程での研究や将来の文化財調査・保存の実務において不可欠な、資料の観察・分析を通して考古学における遺構や遺物の構築技法や製作技法について理解する力を確認することを目的とする。考古学において遺構や遺物の構築技法・製作技法を明らかにすることは、そうした様々な技術によって構築・製作された遺物・遺構の当時の社会・文化のなかでのあり方を解明する重要な手がかりとなる。解答にあたっては、具体的な遺跡や遺物を取り上げ、どのような材料と工程によって作られたのか、またその技術が時代や地域、社会的背景とどのように関わっているかを論理的に述べることが求められる。単に技法の説明に終わらず、技術の発展や伝播、社会的意味づけにまで視点を広げ、自らの理解を明確に示すことが評価の中心となる。

### （2）解答例

本問の解答は、具体的に時代を決め、実際の遺跡や遺構・遺物を取り上げて論じることが大切である。たとえば古墳時代の須恵器を題材とする場合には、その製作技法や窯構造などの実例をあげて、技術の内容と社会的背景を結びつけて述べることが求められる。

**何が大事か：**須恵器の特徴や焼成技術を説明するだけでなく、それがどのように伝来し、どのような社会的役割を果たしたのかを考えることが重要である。須恵器は朝鮮半島から伝わった高温焼成技術によって生産されたものであり、その導入は当時の技術革新や地域間交流、さらには首長層を中心とした新たな生産体制の形成を反映している。したがって、技術を「社会の変化を映す鏡」として捉え、どのような人々が、どのような目的でこれを生産し流通させたのかにまで視野を広げることが大切である。

**書き方の要点：**たとえば、「古墳時代中期の陶邑窯跡群では、登窯による須恵器の大量生産が行われ、畿内から全国へと流通した。この技術は、首長層の権威を支える祭祀や交易の発展にも関わった」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

2. 次の語群①～⑦のうちから一つ選び、論じなさい。

①細石刃

②鉄剣

③陶質土器

④大壁建物

⑤桶巻づくり

⑥経塚

⑦楔形文字

### （1）出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺構と遺物に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明でだけでは

なく、その遺物・遺構を当時の社会的・歴史的な文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺物・遺構であり、時代・地域・機能・技術・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

## (2) 解答例

### 問1—①解答例

細石刃は旧石器時代終末期に出現する石器で、細長い剥片を規格的に打ち出して作られ、小型の石刃を木や骨の柄に装着して複合的な道具として用いた点に特徴がある。たとえば長野県佐久地域では多数などの遺跡群が知られ、更新世末の寒冷期における狩猟活動の発達と技術革新を示している。

**何が大事か：**細石刃を単なる小型化した石器として説明するのではなく、それが前段階の尖頭器文化からどのように変化したのかを理解することが重要である。尖頭器が単独で槍先に用いられたのに対し、細石刃は木軸に複数を埋め込んで矢や槍の刃とする点で効率性が高く、機動的な集団狩猟を可能にした。この技術の発展は、寒冷化する環境下での獣群追跡や季節的移動に対応した生活戦略の変化を反映している。また、細石刃文化は後の縄文時代草創期にかけて一部地域で土器の使用と重なり、日本列島における「縄文文化のはじまり」を考える上で重要な橋渡しの段階をなしている。

**書き方の要点：**たとえば、「長野県佐久地域の細石刃群は、更新世末の寒冷期における狩猟民の適応を示し、尖頭器に代わる複合狩猟具として発達した。この技術革新は、集団的狩猟の展開と定住化への前提となり、縄文文化への移行期を象徴する」といったように、具体的事例と社会的・技術的意義を結びつけて論じる。知識の列挙ではなく、資料から人間活動の変化を論理的に読み解く姿勢が評価の中心となる。

### 問2—②解答例

鉄剣は弥生時代後期にその原型が現れ、古墳時代には祭祀具・武器・権威の象徴として重要な役割を果たした。とくに埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳などの出土例は、鉄剣が単なる武器ではなく、文字を刻むことによって首長の系譜や政治的関係を示す道具となっていたことを示している。したがって、鉄剣の製作技術・流通・用途を通して当時の社会や権力構造を考察することが求められる。

**何が大事か：**鉄剣の形態や鑄造・鍛造技術を説明するだけでなく、それが社会の中でどのように使われ、どのような意味をもっていたかを考えることが重要である。鉄の利用は農具や武器の普及とともに生産力と戦闘力の増大をもたらし、古墳時代の首長層の支配基盤を支えた。特に銘文をもつ鉄剣は、政治的ネットワークや王権の形成過程を読み解く重要資料である点を押さえるとよい。

**書き方の要点：**たとえば、「稲荷山古墳出土の金象嵌銘鉄剣は、5世紀の大王権と地方首長との関係を示す資料であり、鉄製武器が支配者層の権威を象徴していたことを示す」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問2—③解答例

陶質土器は、韓半島で三国時代にかけてみられる高温焼成で硬質な灰色土器で、古墳時代の須恵器の直接的な起源である。特に韓半島南部の伽耶地域などの窯で焼かれた陶質土器は、還元炎焼成によって硬質化し、薄手で精緻な成形を特徴とする。これらの技術は、5世紀初頭頃に渡来系工人によって日本列島にもたらされて須恵器生産が開始された。

**何が大事か：**陶質土器の形や製作技法を説明するだけでなく、それがどのような文化的・技術的背景のもとで発展し、日本列島にどのように影響を与えたかを考えることが重要である。陶質土器の伝播は単なる技術移転ではなく、渡来人の移住や政治的交流を伴った交流の結果であり、これにより日本では窯の技術が定着した。こうした技術の導入は、古墳時代中期以降の土器生産体制や地域社会の再編にも深く関わっている。

**書き方の要点：**たとえば、「韓半島南部の伽耶地域で生産された陶質土器は、窯による灰色硬質の焼成を特徴とし、5世紀に日本へ伝わった。これが須恵器の成立につながり、以後、古墳祭祀や生活の発展を支えた」といったように、具体的事例と技術・文化的意義を関連づけて論じるとよい。単なる技法の説明ではなく、技術伝播の社会的背景を踏まえて自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問2—④解答例

大壁建物は、竪穴建物・掘立柱建物・礎石建物とともに、古墳時代～奈良時代にかけて、古代日本の建築遺構の分類の一つである。壁によって屋根を支える建物で、柱で屋根を支える建築とは異なる。「壁立建物」と呼ぶこともある。まず溝状の遺構を四周に掘り、そこに細い柱を密に並べ、壁土で塗り込めて、屋根を支える構造である。これらの建築構造は、朝鮮半島で多く見られる。日本でも渡来人の集落などでみられることから、渡来系氏族の住居としての認識が持たれるようになった。この大壁建物が検出されるのは、滋賀県大津市の穴太遺跡や南滋賀遺跡と奈良県高取町の観覚寺遺跡などに集中する傾向があり、いずれも渡来人が多く住む地域と重なる。

**何が大事か：**大壁建物の建築構造だけを説明するのではなく、それが日本の建築とどのように違うのかを理解することが重要である。また、東アジア的視点で、渡来系氏族の住居に多いことから、渡来人との関連性が考えられる。ただ、大壁建物だけではなく、他の渡来系遺物の分析を行えば、さらに詳細な出自なども明らかとなる。

**書き方の要点：**建築的な構造の解説とともに、穴太遺跡・南滋賀遺跡・観覚寺遺跡などのように、具体的事例と歴史的な意義を結びつけて論じる。知識の列挙ではなく、資料から人間活動の変化を論理的に読み解く姿勢が評価の中心となる。

### 問2—⑤解答例

桶巻づくりは古代の平瓦の製作技法のひとつ。飛鳥時代に瓦生産が伝来した際、朝鮮半島から伝わり、奈良時代に日本独自の一枚づくり技法が採用されるまで専ら日本ではこの方法で平瓦を成形した。細板を繋げて作った桶状の型に布をかぶせ、そこに粘土紐や粘土板を巻きつけ、叩き締めて均した後に型から外し、4分割して一度に平瓦4枚を成形する。平瓦の凹面に布の合わせ目や綴じ目、粘土紐や粘土板の継ぎ目が、また端部付近に分割界線が観察された場合、桶巻づくりによる製作と判断できる。桶巻づくりは熟練した工人が必要であったため、瓦の需要が高まっ

た奈良時代以降、瓦の大量生産に対応するべく、一枚ごとの型でより簡単に成形できる一枚づくり技法に移行していったと考えられている。

**何が大事か：**瓦の製作技法を正しく把握し、説明するだけでなく、制作技術の導入や技法の変遷に焦点をあてて、その実際や背景について理解し、記述することが焦点となる。

**書き方の要点：**遺物からこの技法を読み取るための観察すべきポイントやその後の技法の変遷について述べ、瓦生産の変遷や画期をといた具体的な事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

#### 問2—⑥解答例

経塚は、法華経などの経典を写経して地下に埋納した遺跡である。平安時代の後期頃にはじまり、現在確認されている最古の経塚は、藤原道長が写経して、寛弘4年(1007)に埋納した奈良県の大峯山経塚である。経塚を埋納する場所は、寺社の境内やその関係地、聖地などが選ばれる。その構造は、写経した経典を経筒に納め、さらにそれを保護する外容器に入れて、石室の中に埋納し、その上に土を盛って塚にするのが一般的であるが、写経した文字を石に墨書する一字一石経もひろく行われていた。これらは末法思想の流行にともない、極楽往生や現世利益・追善供養などの目的で広くひろまった。

**何が大事か：**経塚の概要を説明するだけでなく、経塚の多様性や目的についても理解することが重要である。その構造や種類、時代における変遷を把握する。そして経塚が何のために造られたのかは、当時の社会を復元するのに重要な示唆を与えている。

**書き方の要点：**藤原道長の大峯山経塚のように、具体的な事例を、史料と合わせて提示することにより、知識の列挙だけではなく、資料から当時の社会生活を論理的に読み解く姿勢が評価の中心となる。

#### 問2—⑦解答例

楔形文字は紀元前3000年ごろに、メソポタミア地方でシュメール人が開発した文字で、エジプトの象形文字ヒエログリフと並んで世界最古級の文字とされる。粘土板に葦のような植物の茎を柔らかい粘土に押し当てて記すため、小さな三角形の楔形が組み合わさって文字を表すため楔形文字と呼ばれる。シュメール人によるウルク遺跡では楔形文字が刻まれた粘土板が非常に多く出土した。その内容は家畜や物品、穀物の量などの記録が主で、当時の行政や経済の在り方を示す。時代が下るとアッシリア語やヒッタイト語などの表記にも楔形文字が使われるなど周辺諸国の言語にも大きな影響を与え、メソポタミアを中心とした古代オリエント世界においてはアケメネス朝ペルシアの時期まで、広くかつ長く使用された。19世紀になって、ベヒストゥーン碑文の分析をおこなったイギリス人ローリンソンによって解読が果たされた。

**何が大事か：**楔形文字がいつどこで使用されたものであるかを正しく把握し、概要を説明するだけでなく、周辺地域との対比や影響関係を理解し、古代オリエント社会における社会的意義について論じることが重要である。

**書き方の要点：**楔形文字についての正しい論述に加え、メソポタミアにとどまらず古代オリエント世界全体に楔形文字が与えた社会的インパクトについて論じる。研究史として19世紀の欧米研

究者による解説にも触れるべきである。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

3. 次の語群①～⑦のうちから一つの遺跡を選び、論じなさい。

- ①翠鳥園遺跡                      ②滋賀里遺跡                      ③楯築遺跡  
④黒塚古墳                          ⑤法隆寺若草伽藍                      ⑥菅原遺跡  
⑦トロイ遺跡

#### (1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺跡に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明だけではなく、その遺跡を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学および世界の考古学における主要な遺跡であり、時代・地域・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

#### 問3—①解答例

翠鳥園遺跡（あ大阪府羽曳野市）は、旧石器時代後期、約2万8千年前頃の石器製作拠点として知られる遺跡であり、石器作りの跡が30ヵ所以上確認され、サヌカイト製のナイフ形石器や2万点以上の石のかけらが出土している。このような具体的遺構・遺物を通じて、旧石器時代末期の技術や生活のあり方を社会的・環境的文脈で考察することが求められる。

**何が大事か：**翠鳥園遺跡の石器製作跡や素材・技法を説明するだけでなく、それがどのような人びとの活動・経済・環境との関わりの中で成立したのかを考えることが重要である。例えば、遺跡では、二上山付近から運ばれたサヌカイトが用いられており、素材の取得・運搬・加工という一連のプロセスが旧石器時代の狩猟採集社会の専門化・集団性を示している。また、石器製作跡が「アトリエ」として機能した点は、生活の場（住居跡）とは異なる特化された空間の存在を示し、旧石器時代末期における技術・社会構造の変化を読み解く鍵となる。

**書き方の要点：**たとえば、「羽曳野市の翠鳥園遺跡では、約2万8千年前のサヌカイトを用いた大量のナイフ形石器と製作に伴う剥片が多数確認され、石器製作のアトリエとしての性格が明らかである。これは旧石器時代後期における狩猟採集集団の専門化・拠点化という社会的変化を反映している」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じるとよい。単なる知識の列挙ではなく、出土資料を根拠に、自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

#### 問3—②解答例

滋賀里遺跡は滋賀県大津市に所在し、縄文時代後期から晩期にかけての代表的な集落遺跡である。竪穴住居跡や貯蔵穴、炉跡などの生活遺構が多数確認され、土器・石器・骨角器などが多

量に出土している。これらを通して、縄文時代後晩期における当時の生活様式や生業の多様化、社会関係のあり方を考察することが求められる。

**何が大事か：**滋賀里遺跡の遺構や遺物を単に列挙するのではなく、それらが縄文時代後期から晩期にかけての環境変化や社会の発展とどのように関係しているかを考えることが重要である。たとえば、琵琶湖の資源を活かした漁撈活動、磨製石斧や装身具にみられる地域的特色、また祭祀的遺構の存在から、自然と人との関わり、共同体の精神文化を読み取る姿勢が求められる。

**書き方の要点：**たとえば、「滋賀里遺跡では縄文晩期にかけて集落規模が拡大し、土器型式の変化とともに広域的な交流が進んだ。出土する様々な遺物や遺構は、共同体内部の儀礼や社会的結束のあり方を示す」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。知識の列挙ではなく、資料をもとに自らの理解を論理的に展開する力が評価の中心となる。

### 問3—③解答例

楯築遺跡は岡山県倉敷市に所在する弥生時代後期の墳丘墓で、双方中円形という特異な形をもち、規模は当時最大級である。この墳丘墓は、吉備地方の有力勢力が近畿や北部九州に匹敵する政治的・文化的中心であったことを示しており、その存在は弥生時代の地域間関係を考える上で極めて重要である。また、墳丘上からは特殊器台・特殊壺が出土している。

**何が大事か：**楯築遺跡を単に「大型墳丘墓」として扱うのではなく、その形態や出土遺物を通して、当時の社会構造や信仰体系を読み取ることが重要である。特殊器台・特殊壺は吉備地方特有の葬送具であり、死者を祀る儀礼の象徴であるとともに、地域的を統率する首長権威の高さを示している。また本遺跡出土の特殊器台は、その後近畿における前方後円墳の時代に取り入れられ、埴輪の起源となり古墳時代の形成を考える上で重要である。

**書き方の要点：**たとえば、「楯築遺跡は弥生後期の吉備を代表する大型の墳丘墓で、特殊器台・特殊壺の出土から祭祀性が強く、吉備勢力の政治的・宗教的中心性を示す。」といったように、具体的事例と社会的意義を関連づけて論じるとよい。知識を並べるだけでなく、遺構と社会的背景を結びつけ、自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

### 問3—④解答例

黒塚古墳は奈良県天理市に所在し、古墳時代前期後半（4世紀頃）に築造された前方後円墳で、全長約130mにおよぶ大和を代表する古墳である。1997年の発掘調査により、竪穴式石室内から三角縁神獣鏡33面をはじめ、鉄刀・甲冑・管玉など多数の副葬品が発見された。この多数の鏡の出土状況から、古墳時代初期の政治的勢力構造などを考える上で極めて重要である。

**何が大事か：**黒塚古墳を単に「三角縁神獣鏡が多く出土した古墳」として単に説明するのではなく、その出土の意味や歴史的背景を考察することが重要である。三角縁神獣鏡は、中国の魏鏡との関連が指摘され、卑弥呼や倭王権から政治的関係の証として地方の首長に配布されたと考えられており、当時の政治的関係を考える上で重要である。

**書き方の要点：**たとえば、「黒塚古墳から出土した三角縁神獣鏡33面は、古墳時代前期はじめ頃における大和政権形成期の中央と地方の政治的関係を示す重要な資料である」といったように、具体的事例と社会的意義を関連づけて論じる。知識を列挙するだけでなく、出土状況と政治的背景を結びつけて理解を示すことが評価の中心となる。

### 問3—⑤解答例

若草伽藍は、世界最古の木造建築として著名な法隆寺西院伽藍に先行し、7世紀前半に推古天皇・厩戸皇子（聖徳太子）によって造営された法隆寺創建当初の伽藍を指す。東院伽藍下層には斑鳩宮があったことが推定され、若草伽藍は現西院伽藍の南東に位置し、斑鳩宮の西側に建てられた斑鳩寺に比定されている。発掘調査では塔や金堂基壇が検出され、塔と金堂が南北に並ぶ四天王寺式伽藍であったと判明した。現存する西院伽藍が日本最古の伽藍であることから、『日本書紀』に記された法隆寺焼亡記事の信憑性をめぐり、現在の西院伽藍が7世紀初頭の創建当初の建物か、それとも焼亡後に再建されたものかについて、考古学・建築史学・美術史学の研究者の間で長らく議論が交わされた。いわゆる「法隆寺再建・非再建論争」である。しかし、若草伽藍の地割の方角が現伽藍より西に振れていること、出土瓦が現西院伽藍のものより古式であったことなど若草伽藍の発掘成果によって、最終的にこの論争は決着をみた。

**何が大事か：**遺跡の概要を単に列挙するのではなく、文献史学の成果を踏まえ、斑鳩宮との関係、法隆寺の位置づけに触れつつ、考古学的見地から論じることが重要である。また学史上の意義についても論じる姿勢が求められる。

**書き方の要点：**単に遺跡の概要を述べるだけでなく、西院伽藍や斑鳩宮など法隆寺を考古学の見地から俯瞰して記述する。「法隆寺再建・非再建論争」の学史上の意義について触れる際も、若草伽藍の調査成果がどのように生かされたのか、自らの理解を論理的に展開する力が評価の中心となる。

### 問3—⑥解答例

菅原遺跡（奈良市）は平城京の西方丘陵上にある寺院遺跡である。これまでに東面を向く基壇建物や廊状施設に囲まれた円形建物が発見されている。基壇建物は奈良時代中頃に建てられており、通常の大サイズの瓦のみならず、小型・超小型瓦が出土している。また、円形建物は奈良時代後半に建てられており、様々な復元案が提示されているが、未だ確定はしていない。この立地が、平城京を望む西方丘陵上であり、東を正面とすること、奈良時代後半に造営されていること、出土瓦の同範関係や小型瓦の分布状況から、『行基年譜』に記載される「長岡院」と考えられている。

**何が大事か：**菅原遺跡の概要を単に列挙するのではなく、この建築群が考古資料からどのように考えることができ、史料との対応関係を詳細に検討することが重要である。たとえば、遺跡の立地や正面観、出土瓦の年代や同範関係など、考古資料を駆使して検討する。そして、資料との整合性を図ることが重要である。

**書き方の要点：**考古学資料を活用して、そこから抽出できる分析データを整理する。これを文献史料との対比によって、結論につなげていく。さらにはこのように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。知識の列挙ではなく、資料をもとに自らの理解を論理的に展開する力が評価の中心となる。

### 問3—⑦解答例

トロイ遺跡はトルコ西部、エーゲ海の北東に位置した城郭都市の遺跡である。紀元前3000年ご

ろから営まれ、古代エーゲ文明を代表する遺跡の一つ。ギリシア神話を題材としたホメロスの長編叙事詩『イリアス』ではギリシアと小アジアの都市国家イリアスとの戦いが描写され、トロイ戦争として有名である、19世紀後半にこのトロイ遺跡こそがイリアスに比定されると考えたハインリヒ・シュリーマンが私的に発掘調査をおこなった結果、古代トロイアの王宮跡を発見し、『イリアス』の記述を裏付ける成果をあげた。その後の調査でシュリーマンの成果は修正されたものの、その発見は学史上特筆され、先史ギリシア研究を進展させた。現在まで継続的に調査が続けられ、トルコの古代遺跡として世界遺産にも登録されている。

**何が大事か：**遺跡の概要を単に列挙するのではなく、文献史料との関係を論じることが重要である。また学史上の意義についても触れる必要がある。

**書き方の要点：**遺跡の調査成果がその後の考古学研究にどのような影響を与えたか、シュリーマンの成果が一部否定されたことも踏まえつつ学史上の意義に触れる、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。知識の列挙ではなく、自らの理解を論理的に展開する力が評価の中心となる。

4. 世界遺産を目指す「飛鳥・藤原の宮都」は、正式版推薦書をユネスコに提出しました。その構成資産となる19の資産について、すべての資産名を記しなさい(すべてを答えないと採点対象になりません)。

#### (1) 出題意図

本問は、修士課程での研究や将来の文化財調査・保存の実務において不可欠な、近年の文化財保護行政における動向を認識しているのかを確認することを目的とする。文化財保護行政には様々な職務があるが、世界文化遺産の推薦・登録・管理もそのひとつである。そうした様々な職務を把握して行動することが重要となる。解答にあたっては、近年、世界文化遺産に推薦書を提出した「飛鳥・藤原」の状況について、知識・認識を問うものである。

#### (2) 解答例

本問の解答は、飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池・飛鳥水落遺跡・酒船石遺跡・藤原宮跡・飛鳥寺跡・橘寺跡・山田寺跡・川原寺跡・檜隈寺跡・大官大寺跡・本薬師寺跡・石舞台古墳・菖蒲池古墳・牽牛子塚古墳・天武持統天皇陵古墳・中尾山古墳・キトラ古墳・高松塚古墳となる。

**何が大事か：**構成資産は数多くあり、正式名称をすべてを答えるには、日頃から文化財に関わる情報を正確に入手して整理する必要がある。さらには、世界遺産の目的や制度、コンセプトなども合わせて理解することが大切である。

**書き方の要点：**今回の設問は、「19の資産について、すべての資産名を記しなさい」なので、性格に19資産の名称を記す必要がある。それぞれの遺跡は知っていても、世界遺産推薦資産名と史跡名が異なっている場合もあるので、資産名として正確に記しているかが、評価の中心となる。

【(美) 美術工芸史学】

1. 日本美術において、金色（金箔・金泥等）を効果的に用いた作例を一つ挙げ、その表現の特徴と美術史的な位置づけについて述べなさい。

日本美術において、金色を効果的に用いた作例としては、「平家納経」（厳島神社蔵）が挙げられる。

まず表紙部分に金色が用いられている例として、授記品の海波と州浜文様がある。紫色の料紙に波だつ海とその上に浮かぶ州浜が金泥で描かれている。この州浜文様は、慶長年間の修復にあたった俵屋宗達の作である「松島図屏風」（フリア美術館蔵）に影響を与えた可能性がある。金泥による描写として、信解品の蓮華唐草文、勸持品の宝相華唐草文もあげられる。

ついで、経文を墨書する料紙に、小さな正方形の切り箔、細長い野毛とよばれる形状のもの、微塵と呼ばれる小さな粒状の金箔がまき散らされている。寿量品の装飾がことに見事である。界線も金箔を截ったものによって表現されている。

見返絵にも金色の表現は各所に見られる。例えば序品では、如来の発する光線が截金によって表現されている。また、寿量品では、界線の上に描かれた山岳の蔭の部分、界線の下に描かれた岩陰や葦手に金泥が用いられている。勸持品見返絵には、『源氏物語』松風や浮舟であるかのような場面がえがかれているが、金色の仏像が光を放つ様が描かれている。薬王菩薩本事品では、朱衣をまとった金色の阿弥陀如来が、尼削ぎをした女性に一直線に光を放つ。

これらの金による善美を尽くした荘厳は、作善であるが、金箔による光の直線的表現や金泥によるなだらかな曲線の表現など、視覚的に強い印象を与える効果もある。

(2) 次の仏像のなかから一つを選び、その表現の特徴と美術史的な位置づけについて述べなさい。

- ①飛鳥寺 釈迦如来坐像
- ②東大寺 不空絹索観音立像（法華堂安置）
- ③観心寺 如意輪観音坐像
- ④平等院 阿弥陀如来坐像 定朝作
- ⑤願成就院 阿弥陀如来坐像 運慶作

①現在は新義真言宗寺院安居院の本尊、もと飛鳥寺本尊で、飛鳥大仏として知られる。銅造、丈六坐像で方形の石造須弥壇上に安置される。

目と額の部分、右手指三本ほどに当初の部分を残すのみで、その他は建久7年（1196）の雷火により破砕したのを造り直したものであるが、わずかな残存部分にも推古天皇31年（623）鞍作鳥（止利仏師）が造った法隆寺金堂釈迦如来像との類似を指摘できる。

飛鳥寺本尊造立について『日本書紀』では推古天皇13年に天皇が発願し、鞍作鳥に命じて銅繡丈六仏像各一軀を造らせ、これが翌14年に完成、元興寺金堂に安置したといひ、『元興寺縁起』に引く「丈六光銘」ではその完成を同17年とする。後者は光背銘にもとづき、『日本書紀』に記す完成年時は「丈六光銘」記事の誤解によると見て、鞍作鳥に

よる推古天皇 17 年の完成とするのが従来の学説である。

ただし、飛鳥寺発掘調査により、塔を中心に中・東・西の三金堂があったことがわかり、現本尊像がもともと中金堂にあったと信じられることから、これに異説がでていす。すなわち『日本書紀』『元興寺縁起』中の「塔露盤銘」には推古天皇四年に造寺が終ったとあり、後者に見える鞍部加羅爾ら帰化人系工人の作った「金人」（仏像）が中金堂安置の現本尊で、鞍作鳥による銅繡二軀丈六はやや遅れて建立の東西金堂にそれぞれ安置され、今失われたと考えるものである。重要文化財指定。

また、近年のポータブル蛍光 X 線分析によって、当初部分が想定以上に多いという説も出ているが、機器の誤差であるとする見解もある。

いずれにせよ、日本仏教黎明期におけるモニュメンタルな作例であることは言を俟たない。

(3) 日本美術あるいは中国美術において重要な要素である線描について、絵師や画家がどのように対処したのか、具体的な作例を一つ挙げて論じなさい。作品の制作年代は問いません。いつの時代の作品でもよく、比較のためであれば複数の作品をあげることもかまいません。

(受験者の専門分野に近い作例を選んでかまわない)

尾形光琳の作品を例として、線描について論じたい。

尾形光琳は、「中村内蔵助像」の顔貌や手に、やや濃い墨による、細く張りのある、肥瘦のない線描を用いている。着衣表現としては、やわらかく弧を描く肩やボリュームのある両膝が、顔貌の線描よりやや太めにひかれている。

「太公望図屏風」では、太公望の輪郭を描く墨の色は薄い。そして、線の幅がある。筆の腹を用いて描いているというよりは、面相を描く筆ではない大きめの筆を用いているのではないだろうか。薄く幅のある線描が、右手を頬にあて眼を閉じて微笑む、やや剽軽とさえみえる表情を描くのに効果的である。そして、色彩のなかに疎密をつけるたらしこみの技法によって、背景の岩に立体感が生まれている。太公望の形態が背景の岩の形にくりかえされるような構図の妙もある。

いずれの作品でもストロークの長い線描が用いられる。息の長い線描を遅滞なく、巧みに描く技量をもっていることがわかる。

それに対して尾形光琳の代表作である「燕子花図屏風」では、線描がまったく用いられていない。画面は花卉を描く群青（濃紺）と葉を描く緑青（緑）の色面によって構成されている。

尾形光琳は息の長い巧みな線描を用いることのできる高い技術をもつ一方、没骨法による全く輪郭線のない表現を使い分けることができた。

設問・回答例		出題意図
問1.	文化財研究における保存科学・文化財科学の役割と理念について、考えを述べなさい。	文化財に関する基本的な取り組み姿勢、知識を問う。
解答例	<p>保存科学、文化財科学は、文化財の調査研究や保存修復のために自然科学的手法を応用する研究とされる。文化財は人類が作り、守り伝えてきた文化的、歴史的な財産である。これらを適切な形で将来に伝えるためには、文化財としての価値を明確にするための調査を行い、保存、活用することが必要となる。これら、調査、保存、活用のそれぞれの研究において、保存科学、文化財科学が重要な役割を果たすことが知られている。</p> <p>調査では、可視光線以外の電磁波を用いることで、文化財を構成する元素や結晶構造、分子構造の解析、あるいは肉眼での観察が困難な内部構造の観察が可能となる。文化財調査では非破壊調査が原則とされており、近年ではそれに適した蛍光X線分析装置やX線CTスキャナーが多用されている。保存においては文化財の保管環境の解析、維持管理、保存修復材料の開発が挙げられる。活用では、調査で得られた成果はもちろんのこと、デジタル技術を用いた文化財の公開も進み、新たな理解促進や価値の再発見につながっている。</p> <p>これらに共通する理念としては、文化財的な価値を失わないための現状維持の原則、またその文化財的価値の未来への継承、合理的な科学的根拠に基づき調査や結果の判断、持続可能な保存、継承のための可逆性の担保などが挙げられる。</p>	
問2.	<p>下記の分析装置、測定装置、保存処理装置から一つを選び、その原理と文化財への具体的な適用性を述べるとともに、あなたの研究課題に応用した場合に得られるであろう成果について述べなさい。</p> <p>①蛍光X線分析装置 ②X線回折分析装置 ③X線透過撮影装置 ④X線CT装置 ⑤電子顕微鏡 ⑥デジタルマイクロスコープ ⑦赤外線カメラ ⑧赤外線分光分析装置 ⑨真空凍結乾燥機</p>	保存科学における基本的な調査機器や保存の技術に関する知識を問う。
解答例	<p>①蛍光X線分析装置：試料にX線を照射すると、試料を構成する元素から、各元素特有のエネルギーを持った二次X線(蛍光X線)が発生する。これを検出器で捉えることで、含まれる元素の種類と量を知ることができる分析装置である。文化財の場合、非破壊で元素情報が得られることから、金属やガラス製品、絵画資料の顔料分析などに広く用いられている。</p> <p>②X線回折分析装置：試料に対してX線を角度を変えながら照射し、試料を構成する結晶構造から生じる回折X線を検出器で捉え、解析する分析手法。近年では非破壊での分析が行える装置もあり、資料の同定や腐食状況の確認、保存材料の状態調査などに適用が可能である。資料の同定においては、装身具の玉類に用いられる石材の調査、主に鉱物を原料とする顔料の調査などが挙げられる。保存処理の場面では、金属の腐食生成物を同定することにより腐食の状態を判断する、使用される材料の状態確認を行う(トレハロースの結晶状態)といった使用例が想定される。</p> <p>③X線透過撮影装置：可視光線よりも波長が短くエネルギーの強い電磁波であるX線を使い、それを光源として、対象物に照射した際のX線の透過、吸収の差異を可視化して観察するもの。肉眼では観察することができない資料内部の状態を、非破壊で観察することができる。錆に覆われた出土金属製品の本来の形状を知る、あるいは仏像の内部状態や製作技法の観察などに用いられる。</p> <p>④X線CT装置：透過X線撮影を、対象資料を360°回転させて全方向に対して行い、得られた情報をコンピュータで再構成することで、資料内部の状態を三次元で観察することができる。立体資料である仏像の内部構造や製作技法調査において威力を発揮する。また単なる調査だけではなく、定期的な撮影を行うことで、資料の状態変化など、文化財の「健康診断」にも用いられる。</p> <p>⑤電子顕微鏡：細く絞った電子線を試料の表面に走査させて、凹凸情報や組成情報を得る走査型電子顕微鏡と、電子線をあて、透過してきた電子線の強弱から観察対象内の電子透過率の空間分布を観察する透過型電子顕微鏡がある。文化財を対象とする場合、資料の状態や必要とする倍率などから、走査型の装置が用いられる。電子線で励起された蛍光X線を用いた材質分析も可能である。被写界深度が深いことから、微小な立体物の観察に適しており、土器に残された種子や昆虫の圧痕をシリコンで転写したものを観察するレプリカ法が知られている。</p> <p>⑥デジタルマイクロスコープ：接眼レンズの代わりにデジタルカメラを搭載し、拡大した対象物の映像をモニターに表示して観察・分析する顕微鏡の一種。高解像度の画像や動画の保存、リアルタイムでの画像解析、自動撮影、計測などのデジタル機能が利用できるほか、長時間の連続観察による身体的負担の軽減、複数人での共有・議論を容易にする。絵画、染織文化財など様々な材質の文化財において、微細な部分の観察、記録に使用される。</p> <p>⑦赤外線カメラ：本来は物体から放射される赤外線を可視化するためのカメラであるが、赤外線の吸収率の差を見ることで、肉眼で観察することができない情報の取得に用いられる。特に炭素に吸収されやすいという性質は、絵画の下絵や墨書、出土木簡の調査などに使われている。</p> <p>⑧赤外線分光分析装置：赤外線分光装置はFT-IR(フーリエ変換赤外分光光度計)とも呼ばれる。物質に赤外線を照射し、物質が吸収する赤外線の波長と吸収度合い(赤外吸収スペクトル)を測定する装置で、物質の化学構造の解析(定性分析)や濃度(定量分析)を調べるために使われる。元々は医薬品、プラスチック、環境、食品など幅広い分野で活用されているが、文化財では繊維、樹脂(漆、琥珀)などの調査の他、保存に用いられる材料の分析に用いられている。</p> <p>⑨真空凍結乾燥機：対象物を冷凍し、チャンパー内を減圧することで、含まれる水分を昇華によって乾燥させる装置である。元々は食品や医薬品の製造分野で用いられていたが、水浸出土木材の保存に応用されるようになった。出土木材は土中で微生物によって細胞成分が分解して、多くの水を含んでいる。これをそのまま乾燥させると、水の表面張力によって弱った細胞組織が変形収縮して、資料の形状が損なわれる。真空凍結乾燥処理では、昇華の際に表面張力が働かないことから、資料を変形、収縮させることなく乾燥させることができる。</p>	
問3.	文化財のIPMについて述べなさい。	文化財保存に関して近年大きな問題になっている課題の把握程度を問う。
解答例	<p>IPM(Integrated Pest Management 総合的有害生物防除管理)とは、被害の予防に主眼を置いて生物被害の発生しない良好な環境を維持していく方法で、できるだけ薬剤を使わず、生物の育成を妨げる自然の制御要因を複数組み合わせることで生物被害を防ぐ。</p> <p>具体的にはまず予防措置として、虫や菌の繁殖、害虫の侵入を防ぎ、定期的なモニタリングを行う。塵埃は湿気ため込み、カビや虫の卵の温床になりやすいので、定期的な清掃によって清浄な環境を保つ。温湿度管理を徹底して多湿な場所を作らないようにすることで菌や虫の生育を抑制し、防虫剤によって虫の加害を防ぐ。また、ドアを二重にしたり、ドアの下にブラシをつけることも虫の侵入を減らすのに効果的である。モニタリングでは、粘着トラップを使用した調査がよく行われる。粘着シートのついたトンネル状の小さな箱を設置して、捕獲した虫を調べる。</p> <p>生物被害が発生した場合は、すみやかに対応することが求められる。カビが発生した場合は、風乾やエタノールによる殺菌、薬剤による燻蒸処理を行う。乾燥させることでカビを不活性にはできるが、殺菌はできない。資料に生えたカビを除去する場合は、修理の専門家に相談して適切に対応する。虫害が発見された場合は、その規模や加害された資料の種類によって殺虫方法を決定する。薬剤を使わない殺虫方法には低酸素温度処理、二酸化炭素処理、低温処理、高温処理がある。低酸素温度処理は酸欠状態にして殺虫する方法、二酸化炭素処理は二酸化炭素の毒性により殺虫する方法で、低温処理、高温処理は温度変化によって殺虫する方法である。薬剤を使用する場合は、文化財への安全性が確認された認定薬剤を使って燻蒸処理を行う。薬剤を使えば殺菌(殺カビ)も可能である。殺菌燻蒸では殺虫の場合よりも多量の薬剤を使用し、燻蒸期間も長くなる。燻蒸剤は人体にも有害で、かつ燻蒸後の予防効果はないので、薬剤を使用する場合は必ず文化財専門の燻蒸業者に依頼し、使用目的に合った薬剤を選ばなければならない。</p>	

## 【解答に関する注意】

- ① 日本史学もしくは世界史学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ② 美術工芸史学、考古学もしくは保存修復学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ③ 英和辞典の持ち込み可（電子辞書は不可）。

（日本史学・世界史学を専攻するもの）

次の英文を和訳せよ。

<本文略>

出典：J. M. Roberts, *The Penguin History of the Twentieth Century: The History of the World, 1901 to the Present* (Penguin Books, 2000), pp. 18-19. （一部、改変している）

（美術工芸史学・考古学・保存修復学を専攻するもの）

次の英文は、京都府聚楽第跡の表面波探査法に関する説明である。  
日本語に訳しなさい。

<本文略>

出典：古川 匠・釜井 俊孝・坂本 俊・中塚 良

「中近世城郭研究における表面波探査法の活用－京都府聚楽第跡を対象に－」

日本考古学協会 『日本考古学 第45号』 2018

英語（日本史学・世界史学を専攻するもの）

【出題意図】

英語を正確に読解できるか。

【日本語訳例】

20 世紀初頭、非西洋世界の大部分は、奴隷制が消滅せざるを得ないという事実をようやく、しかも多くの場合しぶしぶ受け入れ始めたばかりであった。人類史上あらゆる文明において当然視されてきた財産奴隷制は、まずヨーロッパで非難され、そして 19 世紀にはヨーロッパ諸国およびその海外植民地において廃止された。廃止プロセスの完了を示す画期点は、1888 年のブラジルにおける奴隷解放であると見なすことができよう。その頃までには、植民地政府やイギリス海軍がアフリカ大陸やインド洋におけるアラブ人奴隷商人の活動を強く取り締まるようになっていた。奴隷制廃止はヨーロッパの武力と外交によって世界の各地域に押しつけられたのである。1901 年においても、奴隷制に対する態度は、ヨーロッパ起源の文明とそれ以外の世界とで大きな違いがあった。他の対照的な態度の違いと同じく、これもまたヨーロッパ人をして、世界の他地域の住民を後進的であるとみなし、彼らを時に邪悪であり足かせとなってきた伝統から解放し、そして、白人の、形式的にはキリスト教徒のものである真の文明へ進む道へと導くには「白人」による恩恵的介入が明かに必要である、という見解を抱かせることになった。

【出題意図】

英語を正確に読解できるか。

【解答例】

実態のよくわからない城郭である聚楽第は、16世紀の後葉の間、京都の中心であった。我々は表面探査を用い、聚楽第の埋められた濠の位置を発見するための調査を行った。濠の位置を発見することは防災の観点からたいへん重要である。また、我々は聚楽第に関する考古学的調査に役立つ情報も得ることができた。

日本の多くの都市では、京都も例外ではなく、近世の城下町は開発されている。広く深い濠がこれらの町を囲んでいる。城郭はほぼ16～17世紀に各国の中心に建設されている。しかし、大半の城郭は当初の建築物を保っていない。時の経過と近代化と共に大半の城郭は破壊され、濠は埋められ、それらを取り囲む環境は変化し、近代都市となった。

これらの大城郭の濠は数十mの幅と10m以上の深さをもつ。しかしながら、それらの基礎は軟弱な土壌である。これらの濠の位置を確かめることは防災に役立つ。なぜなら、地震の間にそのような区域が強い衝撃を受ける可能性があるためである。

## 【解答に関する注意】

① 一 五 の中から1題を選択して解答せよ。

② 漢和辞典の持ち込み可 (電子辞書は不可)。

一 次の史料に送り仮名と引用符を付けなさい。

『類聚三代格』卷一四 義倉事

## 太政官符

忝割留不進義倉五位已上食封位禄事

右検案内、太政官去大同四年四月卅日下式部民部兵部等省符僞、左京識解僞、五位以上進義倉輩、或狎法不進、或僅進代物、因茲未進多数、常煩解由、望請、留封禄懲将来者、右大臣宣、奉勅、依請、右京職准此、其夾名依職司移者、今被大納言正三位兼行左近衛大将陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣僞、奉勅、封禄義倉其率懸隔、以少奪多、事乖寛恕、宜以其禄物、准輸穀数倍而割留、其所留物者、依当時沽価、

弘仁十一年閏正月廿一日

二

次の古文書を翻刻（釈文）し、その大意を記せ。

倭勢固鈴麻路事同承之致

定並了方官幣使再奉官

奉所之解之能可致解下固也

而致依下也仍執事也如件

つひのちん

永享二年壬午月廿日 加賀守 四

掃部 為

守之官之公之

次の史料は、大和国の村で明和二年に書き留められた幕府法令の一部である。条文を翻し、そこから読み取れる近世日本社会の特徴を論じよ。

一 農業者は、自由の國  
 畑を今より入法能事一  
 能種以撰といふ所付  
 耕作之を急荒地は  
 汝とい者有之を急及  
 下は餘法獨所百姓  
 甚煩い又も切也の歎  
 離去耕作は月程農者  
 有之を法今より急之  
 立今村中の物合田畑  
 不意極のは事



次の漢文を訓読、あるいは現代日本語訳せよ。

己未鎮江城中軍陳良策與居民潛通於明將毛文龍令別堡之民詐稱兵至大呼噪城中驚擾良策乘亂執城守遊擊佟養真殺其子豐年并從者六十人叛投文龍其湯站險山二堡民亦執守堡官陳九階李世科叛投文龍上聞之命四貝勒及二貝勒阿敏率總兵副參等官引兵三千人遷鎮江沿海居民於內地命大貝勒代善三貝勒莽古爾泰率兵二千人遷金州民於復州

〔清太祖實錄〕卷八 天命六年七月己未

【史料問題】

【出題意図】

文献史料を正確に読解できるか。

史料一

【書き下し例】

太政官符す

応に義倉を進めざる五位已上の食封位禄を割き留むべき事  
右案内を検ずるに、太政官去ぬる大同四年四月卅日式部・民部・兵部等の省に下す符に倂く、  
「左京識解に倂く、『五位以上の義倉を進むる輩、或いは法に狎れて進めず、或いは僅かに代物  
を進む。茲に因り未進数多く、常に解由に煩ふ。望み請ふらくは、封禄を留め将来を懲らさん  
ことを』者、右大臣宣す、『勅を奉るに、(請ふに依れ、右京職此に准ぜよ、其夾名は職司の移  
に依れ)』者。今大納言正三位兼行左近衛大将陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣の宣を被るに倂く、  
「勅を奉るに、『封禄義倉其率懸隔なり。少なきを以て多くを奪ふは、事寛恕に乖く。宜しく其  
禄物を以て、輪穀数に准へ倍して割き留めよ。其留むる所の物は、当時の沽価に依れ』」。

弘仁十一年閏正月廿一日

史料二

別紙史料 02 参照

□次の古文書を翻刻（釈文）し、その大意を記せ。

倭勢固鈴麻路事固不之改

定並<sup>レ</sup>方官幣使再兼官<sup>レ</sup>

兼<sup>レ</sup>少<sup>レ</sup>府<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>改<sup>レ</sup>解<sup>レ</sup>固<sup>レ</sup>

一<sup>レ</sup>改<sup>レ</sup>依<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>仍<sup>レ</sup>執<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>件<sup>レ</sup>

つきのせん

永享二年壬午七月廿日加賀守四

攝部某

山守六官金心公長

〔翻刻〕〔釈文〕

伊勢国鈴鹿路事、関所可被  
定置之間、官幣使并参宮之  
輩無其煩之様、可致警固之由、  
所被仰下也、仍執達如件、

〔押紙〕

〔津殿の御はん〕

永享二年十二月廿三日

加賀守(花押)〔斎藤基貞〕  
掃部頭(花押)〔摂津満親〕

山中六郎左衛門入道殿

〔大意〕

室町幕府が山中六郎左衛門入道に鈴鹿路を通過する官幣使と参宮者を警固するよう命じたものである。ときの將軍は足利義教であり、その義教の命を奉じ、奉行人である摂津満親と斎藤基貞が連署で発給した奉行人連署奉書となる。

史料三

一、農業情（精）出し、無油断田畑可令手入。諸作、第一能種を撰ミ候而蒔付、耕作可入念。

荒作之様致し候者有之者、急度可令詮議。独身之百姓、長煩ひ、又者幼少ニ而親に離れ、耕作仕付難成者有之者、庄屋・年寄・五人組立会、村中ニ而助合、田畑不荒様ニ可仕事。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世日本の公権力は、「年貢を現物の米で納めさせる」という建前を最後まで崩そうとしなかったため、村人たちには農業、それも水稲稲作に専念してもらう必要があり、ゆえに幕府法令でも、農業に精を出して、田畑が荒れないように、たえず注意せよ、と命令することになったこと

☆年貢の村請が支配の基本方針となっていたこととも相俟って、農業経営が苦しくなった世帯（独身でかつ病気を患った百姓や、年少者しかいない世帯など）がいたとしても、その第一義的な生活保障・救済責任は公権力ではなく、「村」にあったこと

史料四

別紙史料 04 参照

(1) 翻刻

今般大陰曆ヲ廢シ、大陽曆

御頒行相成候ニ付、來ル十二月三日  
ヲ以テ

明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鏤板出来次第

頒布候事

一 一ヶ年三百六十五日、十二月二分テ

四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻之儀、是迄晝夜長短

随ヒ十二時ニ相分テ候処、今

後、改テ時辰儀時刻昼

夜平分二十四時ニ定メ、子刻

ヨリ午刻迄ヲ十二時二分テ、午

前幾時ト称シ、午刻ヨリ

子刻迄ヲ十二時二分テ午後

幾時ト称候事

一時鐘ノ儀、來ル一月一日ヨリ

右時刻ニ可改事

(2) 概要

① 曆を太陰太陽曆（旧曆）から太陽曆とするにあたり、明治五年十二月三日を明治六年一月一日とする。

② 一年を十二ヶ月、三百六十五日とし、四年に一度一日を加えて三百六十六日とする閏年を設ける

③ 明治六年一月一日より、近世までの不定時法を改め、一日を均等に二十四時間とし、午刻以前を午前・以後を午後とする。

※本史料読解の要諦は、これが明治五年十二月に行われた太陽曆への移行にかかる通達であるということである。それに伴う旧曆からの変更点を触れたものであることを認識できているかがポイントとなる。

史料五

漢文

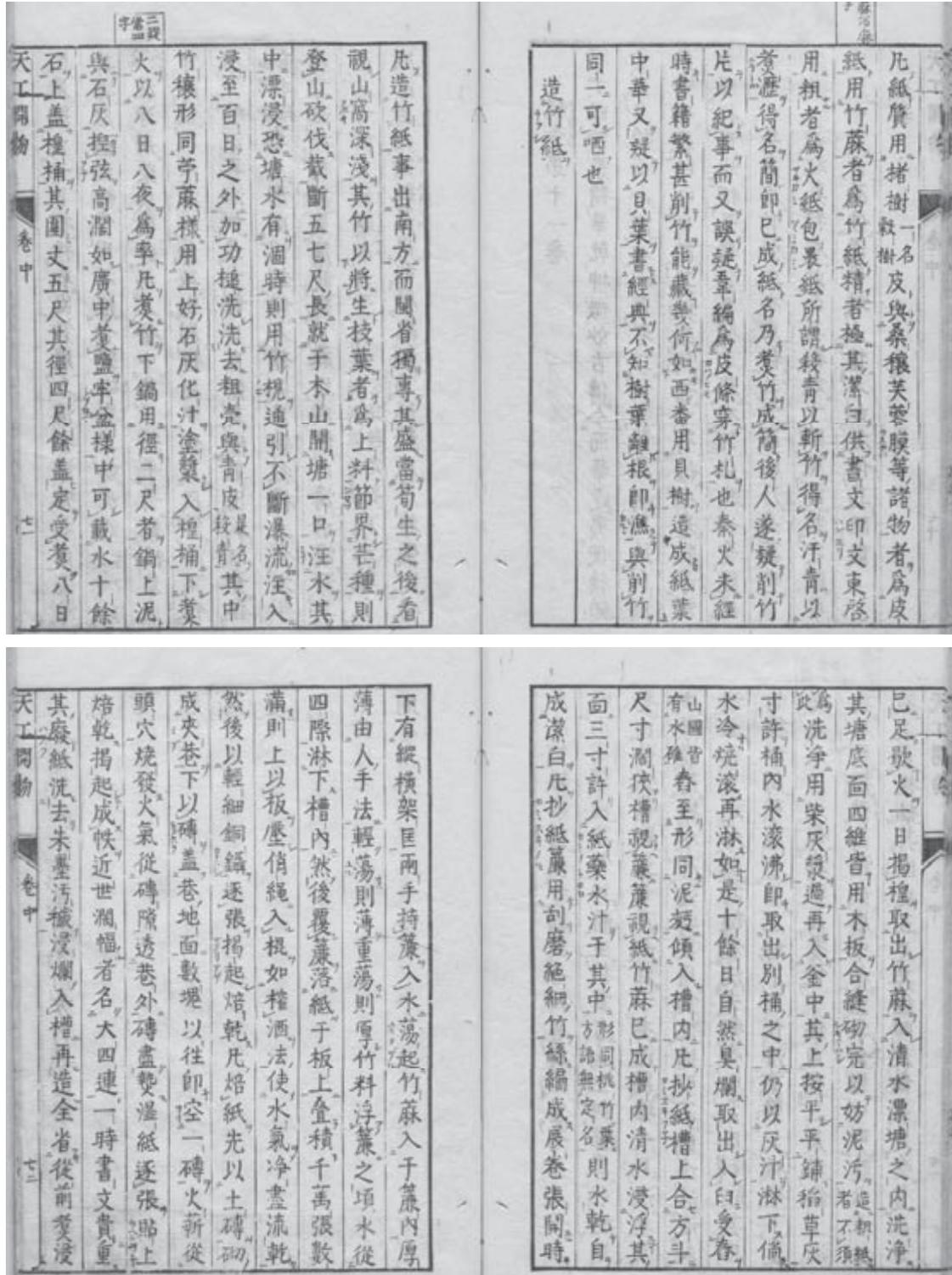
【解答例】

己未の日、鎮江城内の軍人陳良策が、住民とともに明の將軍毛文龍と密かに通じ合い、他の堡寨の民に、兵が攻めてきたとの虚言を大声で触れまわらせ、城内は大騒ぎになった。良策は、混乱に乗じて城守遊撃の佟養真をとらえ、その子豊年と従者六〇人を殺して、文龍のもとに寝返った。その湯站と險山の二堡の民もまた、守堡官の陳九階と李世科をとらえて毛文龍に寝返った。皇上はこれを聞き、四貝勒、および二貝勒阿敏に命じて、総兵官・副総兵・参将などの官を率い、兵士三千人をともなって、鎮江沿海の住民を内地に移住させ、大貝勒代善、三貝勒莽古爾泰に命じて、兵士二千人を率いて、金州の民を復州に移住させた。

《注意》 当該言語の辞書の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書は不可。

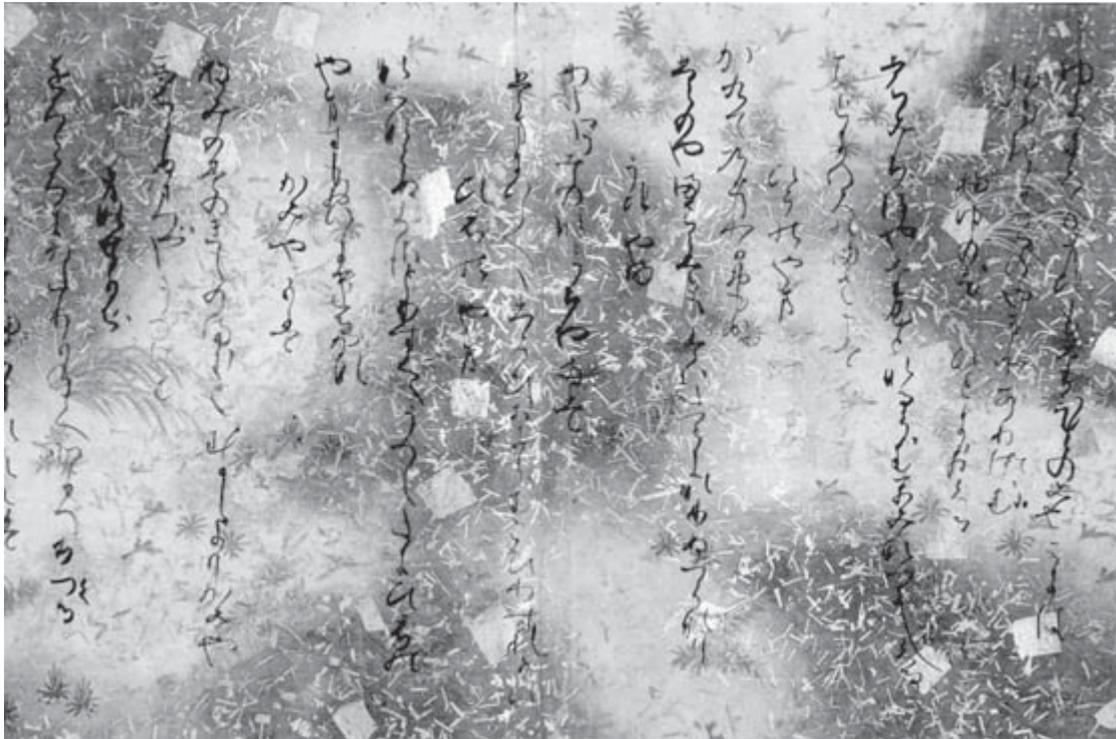
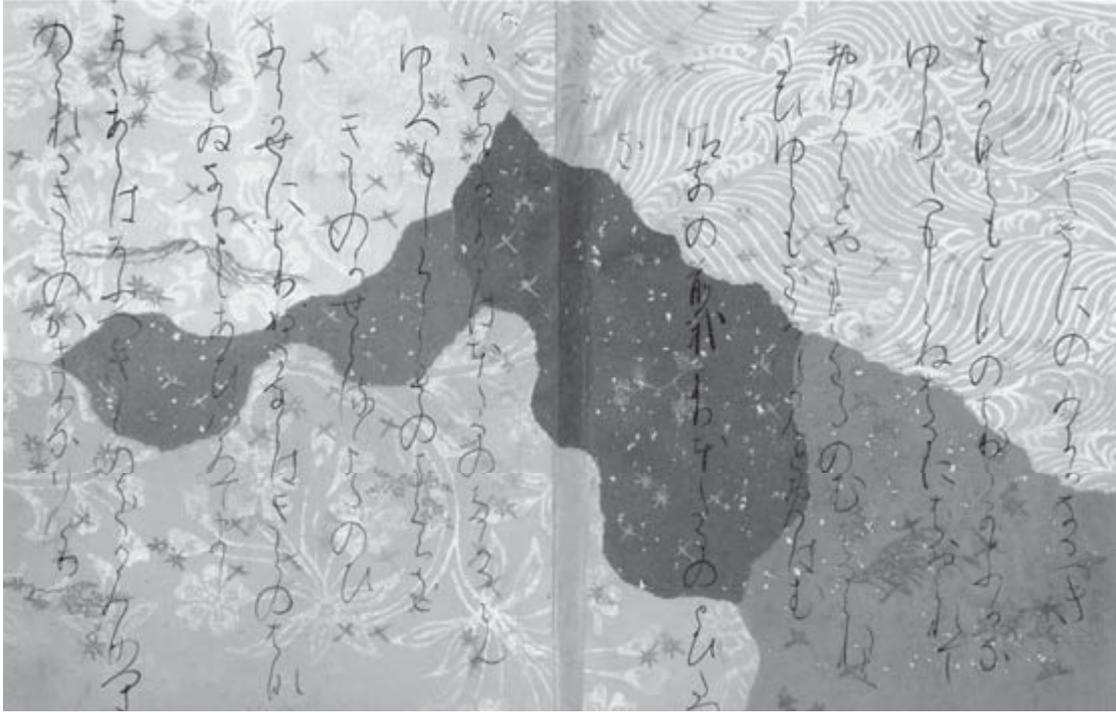
設問、1・2より1題を選び、解答しなさい。

設問1



- (1) 提示した史料を参考に、竹紙の製造法について知るところを記せ。
- (2) 竹紙の特徴を記せ。
- (3) 装潢資料における料紙の科学的調査について知るところを述べよ。

設問2



画像は、西本願寺蔵「三十六人集」中の忠見集と躬恒集である。天永三年（1112） 白河法皇六十賀の際の制作と考えられている。

- (1) この料紙に使われている装飾技法について知るところを述べよ。
- (2) これらの装飾の劣化に対しておこないうる対処法を記せ。

## 設問・回答例

## 出題意図

<p>設問1. (1) 提示した資料を参考に、竹紙の製造法について知るところを記せ。</p> <p>(2) 竹紙の特徴を記せ。</p> <p>(3) 装演資料における料紙の科学的調査について知るところを述べよ。</p>	
<p>(1) 竹の繊維を細かく砕き、煮沸して原料を柔らかくし、水の中で繊維をほぐしてから、抄紙（すぎ）、压榨、乾燥の工程を経て紙が作られる。提示資料の天工開物では、竹の伐採時期は芒種（新暦6月6日頃）を境として、山に登って竹を切る。五、七尺の長さに切断する。その山に一個の溜池を掘り、中に水を満たして切断した竹を漬ける。池の水が時に涸れる心配があれば、竹樋で水をそそぎ入れる。百日以上漬けてから樋で打って洗い、荒い表紙と青皮とを洗い去る（これを殺青という）。その中の竹麻の状態は芋麻のようである。上等の石灰の水にとかした英を塗り、箕の子のある樋に入れてしてから火で煮立てる。八昼夜を標準とするとされている。</p>	
<p>(2) 「自然な風合い」「しなやかさと強さ」「書き心地の良さ」が挙げられる。竹の繊維が原料のため、あたたかな風合いを持ち、筆記具のにじみも少なく、厚みのあるしっかりとしたコシがある。一方で水分吸収力や耐油性などは通常の和紙に比べて劣るとされる。</p>	
<p>(3) 基本的な調査としては、料紙の同定と分類、素材の地域的・時代的特定、装演技法の解明、劣化の状態や原因の特定、後補や偽造等の判定が挙げられる。これらについて、光学的な分析として顕微鏡観察による繊維の配向性からみた料紙の表裏の判定、繊維の種類や製法を観察する。また高精細デジタル画像によって、肉眼では見えない微細な特徴を記録する。他にX線撮影による料紙の重なり具合や内部構造の調査、赤外、紫外、X線による分光分析を用いた墨や顔料の色成分の分析、異なる波長の光を当てて撮影することにより、劣化状態や肉眼では見えない文字や画像を検出する調査などが行われる。</p> <p>化学的な分析では、pH測定による劣化の進行度の把握、クロマトグラフィーによる接着剤成分分析による製造方法の特定（推定）などがある。</p> <p>その他の科学的調査方法として、原料植物（コウゾなど）や動物（膠など）のDNA分析、放射性炭素による料紙の製造年代測定なども想定される。</p>	
<p>設問2. 画像は、西本願寺蔵「三十六人集」中の忠見集と躬恒集である。天永三年（1112） 白河法皇六十賀の際の制作と考えられている。</p> <p>(1) この料紙に使われている装飾技法について知るところを述べよ。</p> <p>(2) これらの装飾の劣化に対しておこなう対処法を記せ。</p>	
<p>(1) 西本願寺蔵の「三十六人家集」は、平安時代に選ばれた三十六歌仙の家集を集めたもので、忠見集（ただみしゅう）と躬恒集（みつねしゅう）はそれぞれ、歌人の凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）と凡河内忠見（おおしこうちのただみ）の家集である。これら家集は、平安時代中期に成立した小型の綴葉装冊子本であり、日本に現存する最古の「三十六人家集」の集合体の一部。</p> <p>忠見集は「金銀泥絵の具による桜散らし文様、下絵に金銀砂子」を用いた金銀砂子料紙が確認されており、躬恒集は「金銀切箔金銀砂子雲霞引きに笹の型文様」の料紙が用いられている。料紙には、金や銀で文様を描いたり、砂子と呼ばれる細かい金銀の塵を撒き散らす、切箔という金銀の箔をちりばめるといった技法が使われている。</p>	

博士後期課程として相応しい知識を問う。

博士後期課程として相応しい知識を問う。